勢陽五鈴遺響

一志郡

二十二

和書門 類
二九〇一九 號
函
架
四〇 冊

内閣文庫
和書 類
二九〇一九 號
四〇 冊
一七二 函
二四 架

閣 21

内 一〇七六五 號

内閣文庫		
番號	和	29019
冊數	40	(22)
函號	172	310

国立公文書館 National Archives of Japan

四21

国立公文書館
National Archives of Japan

勢陽五鈴遺響一志郡巻之壹

内 一〇七二五號

一志郡 一志ト稱ス名義ハ古事紀曰天皇孝昭娶
張連之祖奥津余曽之妹名多本毘賣命生御子
天押帯日子命伊勢飯高君壹師君近淡海國造
之祖也倭姫命世紀曰活目入彦五十狭茅天
皇即位十四年乙巳秋九月朔日迂幸于伊勢國
桒名野代宮四年奉齋中畧次阿縣造祖真桒枝
大命汝國名何問給白草蔭阿野國白進神田並
神戸次市師縣造建呰古命ホ參相汝國名ハ何問
給白害行阿佐賀国白進神戸並神田壹師及市
師ト録ス續日本紀第五元明天皇和銅五年

春正月戊子授無位上道王大野王倭王並従四
位下元額田部壹志王田中王並従五位下　同
第二十八神護景雲元年春正月己巳御東院詔
曰今見諸王年老者衆其中或勤労可優或朕情
所憐故随其状並賜爵級宜告衆諸令此意焉无
位依智王篠島王廣河王浄水王名方王調使王
飯野王鴨王壹志濃王並授従五位下　日本後
記巻十一弘仁四年春正月乙卯朔丁丑制メ令
伊勢国壹志郡尾張国愛智郡常陸国信太郡但
馬国養父郡貢郡司子妹年十六已上二十已下
容貞端正為采女者各一人　三代實録第三貞
観元年十一月十九日進参河介壹志宿祢吉野

並従五位下　又人名ニ逸志アリ　文徳實録
巻一嘉祥三年五月甲午従五位下中臣朝臣逸
志為神祇大輔　同巻ニ同年九月乙亥朔乙酉
遣少納言従五位上中臣朝臣逸志藤原朝臣恒
雄並叙従五位上鎌蔵王内蔵頭従五位下中臣
壹志等向伊勢國依例奉幣別献納馬五疋以充
神御（一本伊勢大神宮及細馬五疋ニ作ル）　同第三仁壽元年十
一月甲午又同第五仁壽三年夏四月庚午遣
侍従五位上島江王神祇大副兼内蔵頭従五位
上中臣朝臣逸志等向伊勢大神宮請除災疫
同秋七月丁未遣散位従五位下斉金世王神祇
大副従五位下中臣朝臣逸志散位従五位下斉

部宿祢伴主等向伊勢大神宮奉幣攘災厄也
大和國市磯ハ名同トイヘ𪜈十市郡ニ隷ノ市
ノ字ヲ假リ伊知伊曽ヲ略シ轉メイチシト訓
ス日本履中天皇紀ニ載タリ本州ノ壹志ハ唯
イントト訓セリ後世字音ニ拠テ一志ト訓スナ
リ前ニ云三代實録第三参河介壹志宿祢イシ
ト點ヲ附タリ然ルニ其壹師市師モ同ク假訓
ニメ字義ナキニ似タリ准后親房洞津考云天
乃日別にみつりの子阿りけふそ百舌雄そ高
山は我家まとし阿り天冨饒ら以しれ郎志り
きてこら郗く藤別志りふりは取すゆし毛
郡ト古訓ヲ称セリ蓋和州ノ例ニ拠リ又壹師

市師各イチノ訓ニ読ヘキ理ナリ此二義ニ尉
踏セリ或云壹師及市師ハ本州ノ安濃ニ隣メ
中央ノ地ナリ四方民庶聚會メ上古モ一志ノ
駅舎所置ニメ市鄽ニ聚リ會スノ意ナリ壹師
モ同シ第一ノ郡縣ニノ師衆ノ帰ク処ナリ
詩経公劉篇曰涉南岡乃覯于京師之野朱注曰
京高丘也師衆也蔡邕独断曰京大也師衆也云
云此ノ謂ナリ　今詳ニスルニ上世ノ名ヲ称
スルニ字義ニ拘泥スルヿナシ假字ノミ上説
ハ鑿ニ過テ未瞥ノ言ナリ憶ヿニ案名郡案名
安濃郡安濃一志郡一志各古昔郡家ヲ所置ノ
地ニメ俗ニ其郡ニ郡名ヲ称スルヲ親里ト云

此三処ニ限リテ今ニ称スル同シ其一志ト名
クルハ義未詳或云本郡ハ山河絡繹メ巨巌怪
石多シ今憶フニ雲津川水源ノ村落伊賀州界
ニ至テ然リ故ニ石ヲ称メ壹志ハ假字ナリ又
詮スルニ俗譚ナリ壹市ハ孰レ音訓ニ従テ二
音讀ヘシ然ルヲ後世好事ニ至テ一音ニ訓セ
シナリ然ルニ其名義愈々解スルヿヲ得ス姑
ク闕如セリ　拾芥抄云壹志今云飯町ト載ス
其時然称スルニ拠レリト云ヘ𪜈今ハ不然何
ノ義拠ル不知　又安濃郡ヨリハ本郡ヲ指メ
西郡ト称ス西位ニ所在ナレハナリ和名類
聚抄第六壹志郡　八太鉢多　日置比於　嶋貫

之木沼木　須可須加　小河乎加波　呉部久礼倍　宕
野多木乃　民太ニ乃多　餘戸　以上今詳ニス
ルニ八太ハ八多アリ日置ハ日置アリ嶋貫ハ
嶋貫アリ須賀ハ須可アリ小河ハ小河アリ呉
郡ハ星合ナリ宕野ハ宕ハ多木即愛宕ヲナタ
キト訓スルニ同シ今村邑ニ滝野川アリ民太
ハ深瀦田ノ名ニメ沼田俗ニメタト云三乃多
ハ轉ニメ今村邑ニ美野田アリ此郷名ニ合ヘ
リ詳ニ本郡戸木村敏多神社ノ條ニ載タリ和
名鈔ニ所載郷名ハ西位ハ八太ヲ限リ東位ハ
海ヲ限レリトス餘戸ハ駅家ニ同ク郷ノ名ニ
非ス延喜式第二十二曰凡郡不得過千戸若餘

五十戸以上者分隷比郡地勢不宜分者隷入他
郡若不得已而應分者別録申官稽ルニ五十
戸以上ハ其郡ニ分置処ニメ所謂餘戸ナリ本
州桑名郡ヲ魁トメ郷名ヲ分置セルヲ閲ルニ
稍ク安濃及本郡ニ始テ民邑多シ又度會郡ニ
至リ次第メ村落多キニ至レリ然レハ本郡始
テ餘戸ノ所置然リ他郡ニ此名ナシ志摩州英
虞郡ニ餘戸アリコハ之ニ例メ識ヘシ神鳳抄
云一志郡神戸二百五十町三段六十歩御神酒
六荷白塩一石二斗祭料並造酒米二石懸刀稲
四十束荷前御調糸四絇三疋　同有名未識神
封　内宮瓜生御園　内宮近連神田　内宮永

用御厨　内宮若栗御厨　同平津御厨　同坂
本御厨　同曹司御厨　渋河御厨　出口神田
重富神田　外宮小社御厨　徳友御厨　外宮
本平御厨　坂本御厨　外宮一松御厨　二宮
大原御厨　内宮永用神田　西薗御厨　西濱
御厨　永藤御厨　松高御厨　下牧御厨　外
宮荷前神田吉清御厨　外宮神領目録所載
未識神戸　木平御園　荷前神田五斗
稲木御園　一松御厨六月塩三斗九升九十二
同　西濱御園塩二駄　利松名上分二石園
御厨　常冨御園　下牧御園六月菓子九月米
一斗十二月菓子　太原御園六月紙十二帖二

柄三度御祭勤　本郡疆域伊勢国風土記曰東
西十三里南北三里上世ノ里程ニメ今ト異ー
リ西ハ伊賀州山田郡伊賀郡名張郡大和国宇
陀郡ヲ限リ東ハ東海ヲ限リ南ハ飯高郡界ヲ
限リ北ハ安濃郡界ヲ限レリ　本郡界城行程
本郡大村ノ内一ノ坂ヨリ伊賀州山田郡馬野
坂下村ヘ二里十九町十一間鬼瘤越リ称ス牛
馬通ストイヘ圧嶮路ナリ嶺通リ四方エ径ア
リ山田郡諸邑ヘ通ス又本郡谷杣ヨリ同州坂
下村ヘ二里半又本郡小倭ノ内入道垣内ヨリ
伊賀州伊賀郡伊勢地村ヘ二里十九町國堺迄
七町伊勢路ヨリ一里塚伊賀州ノ内ニ隷レリ

垣内越ト称ス又本郡大原ヨリ伊賀州同郡奥
鹿野エ一里十一町三十間西峠越ト称ス又本
郡福田山ヨリ伊賀州伊賀郡霧生村ヘ一里廿
七町四十二間モト、リカ嶺ノ北ヲ経テ至ル
又同岳ノ南ヨリモ至ル二里牛馬不通嶮路ナ
リ又本郡下太郎生ヨリ伊賀州伊賀郡高尾村
ヘ一里半白井峠越ト称ス又下太郎生ノ内堺
カ瀬ヨリ伊賀州名張郡布生村ヘ九丁又本郡
下太郎生猿子ヨリ伊賀州同郡布生村ヘ八町
四十二間又本郡八知ノ内小西ヨリ伊賀州伊
賀郡高尾村ヘ一里廿二町三十七間櫻峠越ト
称ス又本郡上太郎生ヨリ太和州宇陀郡神末

村ハ一里四十五間神末ノ小邑三本松和州ノ
堺ナリ又本郡杉平ヨリ同州神末村ハ三十二
間國堺ヨリ十六町三十間大和州ノ内伊勢ヨ
リ一里塚アリ安濃津ヨリ村境ニ至リ十一里
廿三町四十五間杉平ハ津領ナリ以下準之
本郡上太郎生ヨリ大和州神末ニ至ル安濃津
ヨリ村境ハ十二里六丁廿三間本郡小西ヨ
リ伊賀州高尾村ニ至ル安濃津ヨリ村境ハ十
里十九町一間　本郡福田山ヨリ伊賀州霧生
ニ至ル安濃津ヨリ村境ハ九里三十町二十一
間本郡大原ヨリ伊賀州奥鹿野ニ至ル安濃
津ヨリ村境ハ七里十二町本郡垣内ヨリ伊
賀州伊勢地ニ至ル安濃津ヨリ村境ハ六里廿
九町本郡一ノ坂ヨリ伊賀州坂下村ニ至ル
安濃津ヨリ村境ハ三十一丁十三間○村邑
文禄三年検地百二十五村　正保二年二
百七十村　明暦中雑記所載　百三十三村小邑七十八村
元禄十三年百五十八村今計百二十九
村外小邑百二十三村　總合二百五十二村
府城一處○正税高文禄三年検地
九万七百三十三石二升五合雑記所載九
万五百六十石九斗三合　内五万八千三百
一石四斗五升九合　田方三万二千二百五
十九石四斗四升四合　畑方外九百六十

五石四升五合　新田　元禄十三年　九万九
百十一石四斗二升九合

谷杣本郡西ノ極界ニアリ小倭郷ノ内ナリ
正税三百廿石津領ナリ　属邑別所一之坂
アリ一ノ坂同郡犬村ノ属邑同名各本邑ノ乾
位ニアリ

上村谷杣ノ艮位ニアリ山間ニ民居ス榊原本
邑ナリ七栗ノ郷ト称ス　正税二千四百三十
石津領ナリ属邑中村本邑ノ東ニアリ　平
尾中村ノ東ニアリ又平生ニ作ル下村平尾ノ艮位ニ
アリ此地ニ上中下、称ス村邑多シ或榊原中村
下村ト称シ或大村中ノ村ト本邑ノ名ヲ各帯
メ中之村下之村ト分辨メ其隷属ヲ称セリ
神鳳抄云坂木御厨内宮一斗九月異本々ニ作ル非ナリ榊
ノ謂ナルヘシ又内宮七栗御園一斗・六九十二即此地
ノ有スル処ナルヘシ　又内宮中村拜野御厨
上分一石五斗雑用二石本郡ニ隷ス中村ノ名
他ニナシ此ニ標ス。七栗ハ七ケ村ノ惣名ナリ昔ハ一処ニテ有シニ
ヤ上村ヨリ以下ノ村邑ナ都合シテ七栗ナリ

式内射山神社　同処中村温泉山ニアリ坤向テ
坐ス方俗温泉大明神ト称ス又湯本明神例
祭九月九日祭神未詳戸木村敏多社ヨリ西去
三里半度會延経神名帳考證云射山神社猿田
彦命射栄之略語榊原村七栗温泉云鏑取神此

手鑰取稱猿田彦見上榊訓栄木也此神以栄登
為名度會正身神名帳再考證云射山神社イ
ヤマト訓スヘシ射ノ字ハいナリ為ヲ用ヘカ
ラスイヤマハ湯山ニテいゆ訛リ通スル例多
シ今ノ榊原温泉ハ清女カ枕草子云七栗ノ湯
是ナリトソ其処ニ里人鍵取明神ト云社アリ
是ナルヘシ祀神大己貴神ノ祖清之湯山主三
名狭嶋彦八島篠ナリ此神ハ大己貴六世ノ祖
ニメ湯山主ノ名アレハ摂州有馬ニモ此神ヲ
祀ルヘキニ大已貴ヲ祀レルハ誤ナリ又ノ説
雜例集ニ七栗御園トアレハ佐伎栗栖神ノ如
ク稚産霊ヲ祀ルナランニ今詳ニスルニ延経

考證射山神社ノ名義ニ拠テ射ハ栄ノ畧ニメ
榊原ノ名モ佐加恵木ノ訓ニ拠リテ此ニ所祀
ノ鑰取明神社ニ充ル祭神ハ猿田彦命ヲ鑰取
ト云義ハ鑰ト貝ト語相近ク此神拾貝故ニ甲
斐弁羅神社ノ條ニ載タリ方俗鑰取神ト称ス
ルハ故ニ猿田彦大神ヲ奉祀ス処ト定タリ正
身再考證射山ハ伊屋摩ニメ湯山ニ通ス故ニ
榊原温泉山ノ神社トス祀ル処ハ大巳貴命六
世ノ祖清之湯山主三名狭漏彦ヲ定タリ或ハ
七栗御園ノ地ナレハ穀霊稚彦霊ヲ祀ル処ニ
モアルヘシト云勢陽雜記ニ鑰取大明神ト称
ス神風徴古録ニ祭神大穴貴神少彦名命二座

トス或素盞嗚尊少彦名命泣澤女神三座ヲ祀
レリト云又此地ヲ上古射山ト名ルニ拠テ延
喜式ニ射山神社トアリ神代ヨリ神昊ヲ清
ノ湯山主ト称シ奉ルト云前證ニ鎬取ノ俗称
ニ拠リ榊原ノ名ニ従テ猿田彦大神ヲ祭ルト
ス又再考證ニ温泉山ニ拠テ其療病璧祖ノ大
已貴命ノ祖清ノ湯山主ヲ祀レリトシ勢陽雑
記ニ此義ニ拠テ大已貴少彦名命ノ二神ヲ祀
トス各牽強附會ト謂ヘシ其大已貴少彦名命
二座及素盞嗚尊少彦名命泣沢女神三座ヲ祀
ルト云ハ延喜式ニハ射山神社一座ニハ填ル氏
ハ二座三座ノ合祀ナシ妄ナリ其鎬取明神ト

称スルハ神鳳抄坂木ノ御厨ニ神封ノ地ニ祭
神ヲ方俗大神宮鎬取明神ト称ス多シ此ニ云
ハ敢テ猿田彦神ヲ拾貝取ノ義ニメ鎰取ト称
スル非ス各従ヒカタシ式社案内記沢女神ヲ
祀ルトス徴古録所載ノ一座ヲ此ニ擬レリ然
氏其證ヲ得難シ如ク闕如ノ後哲ヲ俟モノナ
リ今榊原ト名ルニ拠テ榊ヲ大神宮ニ献ス
ト云国永集ノ詞書ヲ採テ古昔ノ榊ヲ此ニ牽
強シ字ヲ榊原ト填タルナルヘシ然レ氏神鳳
抄ニ坂木御厨ト出タレハ強テ榊ニモ非ルヘ
シ憶フニ日本孝元天皇紀四年春三月甲申朔
甲午迁都於軽地是謂堺原宮古事紀ニ堺囲宮

ト載テル此地大和国軽村ノ大路ノ西ニ佐加紀婆羅ト云処アリ是宮ノ旧墟ナリト古ニ堺原ト称シ後ニ轉メ榊原ト云片ハ旧ハ郡ノ界ナルカ故ニ堺原ト名ケタルヲ訛リテサカキトスルニ同ク本州榊原モ古ハ堺原ト名タルヲ後ニ訛リ轉タルナルヘシ今案スルニ其故ハ本郡ト安濃郡ノ堺ナルヲ以テ知ルヘシ

北畠権少将国永家集　天照大神へ奉所より
榊をゑくまいらせ上給事納めしらせんこ
川なりしなをかわれハ懐旧の心人のか
よもぎ神より川こえてし
世の中挽人かまれとわ誓振神にまいらせて　住吉榊原

往昔大神宮ニ榊ヲ供メ神祭ノ用ニ備フ例アリ故ニ榊原ト名クト方俗ノ傳アリ前ノ坂木ノ御厨ノ謬傳ナルヘシ又同集　中村ゆらい草蕭
ふ所ふ一畝の地を排ミ争ひいろ川らに草蕭
ことして志のそ蓮河りく生あまりくまりて此
世のなもひことなくもとして抄を旧由なき韓呂
黎も故人の糟粕をなめかは事ないひしかこ
とくふるき哉志しふ悪されし室舞の民何人ふもて
おもひやしれ侍侍
うれ世ふあしそふ畔のあきは中や中きさなもふ志かた蓮生
榊原清岩まうこもとへいろく家ふかへし暮の日毎
よ来れうた

こゝや由をますめる故とや訓来りし新撰をもちゐあさる所也
栂尾は藝に十年あまり山上へまかりて一事なくと
おもひ出し
うちすてし法華にこゝろ寄しなにまでも思ひわすれぬ山の奥の秋
今詳ニスルニ山上ハ大和州金峰山ニ非ス同
郡飯福田山ナルヘシ同郡近き地ナレハ懐旧
ナ山居ノ寂寥ニ詠セシ処ナリ
二月廿一日栂尾にまかりし梅木ある処にて梅を二首
うちなびく枝に栂の鶯落ちにいろいろ梅咲かさかりなれ
春風もちりぬるほどの庭も軒にみだれて白に見る梅の花
きさらぎの晦日栂尾にまかりし社頭の花咲あれる
神楽人を歌にして

千早振神の御まへに咲ぬる花木もさくらなる末もかのまゝに
岩着に瑞垣をとゞまる上座く法ないすゝみて
栄小へきを春秋に好きを称へよりかの月影を積む年ほと我
栂尾より立帰りし侍し人とゝし庭なる花共に
なきを
命あらは立かへり見ん紫の雲のかゝるすみなれ宿の藤浪
我もたゞはなのありし栂尾といふ所に集まり
住侍りしにこゝち友安性といふ老人折しことの
ひなとしりふ華着に炭を一話ねこせしゝ
さり
山里の住うかりしや見ぬ人も見るめあらぬ浦の釣舟
ゆき侍りしに　や　ありて又まひく住給人の志

とさきもあれとてますく炭を窯すはいまた
いふれてうたこれ十首

山里の住まりゐはすみしもさこふなりけるに旅しけ
山里そ住まりゐふきくときくえとえるるを隠りなるらむ
山里は住しくるしき出くせにふまくらするそおもひ莫ゐは
山里に浦のつたしくおもひそめやらつむし壇のかり紀のすみ
山里の人は志りしれやかに雑世まこそすたの根なる身を
山里にやそ入人のあしましきいく春秋の花すみちなるを
山里へおもひたちのくはくらおりふしあるあきいりなん
山里のおもしかりの友を至しくやとくあしくうき世なり
山里の人にえ世ちやみなけてあきる浦の浦の網引を
山里や果霜ふりてよしと志静そしふ袂風のおとを

七栗温泉 同処中村ニアリ温泉ノ出ル処ハ川
崖ナリ今ハ湯ノ出ル処纔ニメ浴スヘキナシ
故ニ其泉ヲ汲メ浴室ヲ設焚テ浴スルナリ他
郡及通州ノ客来遊ノ浴泉ス処ナリ春秋ノ候
ハ閙熱ナリ 夫木集 詞書 伏見ヨリ由ヒカ
して大納言経信卿を呼侍りけり来さりけれハ
まうしつかはしける

一志なる七栗の湯も君か為恋しやますときけハ物うし
橘俊綱

新勅撰 相模
活きもせに恋する湯をよしれはこや七栗の出湯なまぬるく

堀河百首 基俊
いかなれハ七栗の湯のぬるくこといつも夏のすゝしかるらん

同後百首　　　常陸

よの人は恋の病はくすりとやなゝ栗は湯の涌かへるらん

丹後守家百首　　　盛忠

つくしにも湯はおなじくましけと七栗へこそきて来つる

春夢集　　　肖柏

志らなしは七栗は湯をたちえて恋の病はなほやせん

清少納言枕草紙云　湯はありまなゝくり

今詮スルニ八雲御抄云七栗ハ信濃ニアリ徴古録云一説信濃地名考云七栗ノ名ハアリ湯ハナシト云云藻塩草類字名所鈔等同説ナリ

伊勢名所拾遺云古老傳云一志郡七栗といふ所に湯ありこれをなゝくりの湯といふ津より坤方四里云云　同追考由章云八雲御抄ニ七栗ハ信濃ニアリト云ヘ𪜈彼国ニ七栗ノ名更ニナシ此処ヲ信濃ト云タルヿニテ當国ニウタカヒナシト云云然レ𪜈東間ノ御湯七栗ノ湯大養ノ湯信濃ノ御湯等古典ニアリ温泉ナシト云𪜈其徴ニ不足前ニ夫木集一志なは七栗云云ノ歌神鳳抄七栗御園ト載ルニ論ヲ不容本邑ナ所称ナリ猶温泉ニ浴スヿハ源国永集ニミヘタリ永禄中ノ人ナリ猶旧クヨリ浴セシノ徴ナリ今温泉ノ涌ク嵓石ノ上額ヲ掲ク神湯ト書ス村雲御所深華ナリ温泉山ノ川ノ向フニ方俗介石山ト称スアリ多ク

石介ヲ出ス螺蚧蛤ナリ　羅山文集曰開闢之
之時洪荒之代土壌之聚凝未必無遅速故山上
有螺蛤殻者是水沫凝同也云云是確論ナリ諸
本及三才図会海槎餘録諸州府志等ニ載テ海
西ニモ多シ凡テ本邦諸山名區霊場ニ産スル
地アリ俗傳ニ奇異ナル者ハ神佛ニ託シ及高
僧ヲ冒ス類常譚ナリ文明ノ化ニ浴メ今俗識
者多シトイヘ𪜈往々其地ニ誇罵ル者ナリ怪
惑ヘカラス猶此地ヨリ安濃郡長野柳谷ニ續
テ多産セリ其所在ナリ

榊原城墟　同処ニアリ仁木右京太夫源義長十
一代後裔榊原信濃守氏経歴代此ニ住ス永禄
年中大和州宇陀郡ニ於テ戦死ス其男榊原三
左衛門尉父子国司北畠信意ニ属メ北畠家斷
滅ノ後織田信長ニ属ス天正十二年木造城軍
陣ノ時榊原刑部少輔同羽野ノ陣営ニアリ後
織田上野介信包ニ属ス奄藝郡上野在城ノ時
同郡中山村ニ住ス其地ニ病卒ス又越後国高
田城主榊原家系ハ本国伊勢榊原信濃守氏経
ノ弟榊原右衛佐長政長男同式部大輔康政ヨ
リ傳系メ今榊原ト称ス伊賀国仁木ノ流ニメ
此ニ居ス故ニ右衛門大夫長政ノ弟釈迦寺ノ
住侶ニメ其寺廃メ田圃ノ字ニシヤカ地ト云
遺跡アリ又其弟ニ榊原左京進入道法名休斎

慶長年中安濃津城主冨田信濃守知信ニ属ス
此地ニ病卒ス其男榊原八右衛門尉藤原和泉
守高虎ニ奉仕ス

○榊原家系
榊原信濃守氏経 — 榊原刑部少輔
　　　　　　　　　榊原三左衛門尉
榊原信濃守氏経 —
　榊原右衛門大夫長政 永禄中大和州戦死 — 榊原式部大輔康政
　釈迦寺
　榊原左京進 法名休斎 — 榊原八左衛門尉

蝿田 榊原平生ノ東ニアリ正税六百七石津領
十リ属邑北出本邑ノ北ニアリ久居領十リ

佐田 榊原中村ノ坤位ニアリ安濃津ヨリ坤位
五里小倭郷ノ内十リ旧ト小倭庄ト称ス処也
和名鈔ニ八十シ正税九百九十七石津領十
リ属邑奥佐田本邑ノ乾位ニアリ

佐田口城址 同処ニアリ天正年中盛長越前守
住セリ

同 南出城址 同処ニアリ同年間年吉懸三大
夫入道居セリ

同 奥城址 奥佐田ニアリ堀山次郎左衛門尉
居セリ

北畠國司家執政ノ時ヨリ小倭郷七黨ト称ス
アリ俗ニ七人衆ト号ス所謂白木久須見
堀内 吉懸 岡村 庄山 松岡 松田
益田執ニ 満賀野 馬場 重岡 岡 稲垣 小

泉等ノ一黨ナリ天正四年丙子國司具教滅絶ノ後其裔北畠具親兵ヲ挙ルニ及テ此黨モ旧主ノ恩ヲ顧テ北畠具親ニ属セリ然ルニ其時ハ織田信雄ヨリ令メ小倭郷ハ滝川三郎兵衛尉柘植三郎左衛門尉木造旧臣長野左京進ニ領千領セシム故ニ此三臣発向ヲ小倭黨ヲ平定セリ天正十二甲申年木造旧領分小倭郷領分ハ織田上野介信包ニ属メ岡村修理亮長野左京進ヲ居シム後ニ八幡山ニ新ニ城畳ヲ任セリ福田山領主福田山帯刀ト左京進刄傷ニ及テ互ニ亡ス故ニ八幡山城織田信包奪メ其臣守岡金助ニ給フコヽニ病死ス其男守岡助之

進播州ニ至リ羽柴秀吉ニ属ス後ニ蒲生飛弾守氏郷ニ仕フ又同年間ニ佐田口ノ城ハ小倭黨盛長越前守同南出ノ城ハ吉懸三大夫入道同奥ノ城ハ堀山次郎左衛門尉セリ三城各蒲生飛弾守カ為ニ滅亡ス小倭七黨ハ各紀氏ニメ紀貫之カ裔ナリ詳ニ伊勢兵乱記ニ載タリ其餘此郷ノ古城址ハ村邑ニ名アルモノ各條ニ載ス天正十三甲申年小倭黨岡村修理亮長野左京進等蒲生氏郷ニ属スヘキヲ使令メ通シケル其時氏郷木造城ヲ撃シカ為戸木ノ陣ニアリ戸木ノ城ニ軍士ヲ置自ノ小倭ニ発ス其軍卒一千余小倭佐田口ノ城ヲ撃城主盛

長越前守敗〆退ク出城ヲ陥ス城主吉懸三大夫入道蒲生ノ臣八角弾正忠カ為ニ討ル吉懸カ男市之丞軍ヲ駈破テ奔ル又奥佐田城ヲ陥ス北畠具親伊賀州ヨリ安保大蔵少輔ヲ使ト〆軍ヲ和セシム故ニ城主堀山次郎左衛門尉開城〆退ク

紀貫之墓　同処浄光寺境内ニアリ浄光寺ハ古昔大刹ニ〆相傳悪七兵衛平景清再興ス処ナリ或云加藤景清ナルヘシ平景清ト同名ヲ以テ混セリトス地境ニ結界境ト称〆四処ニアリ経塚ノ類ナルヘシ其中ニ紀貫之カ古墳ノ一堆アリ貫之孝元天皇皇子彦太忍信命ノ裔武内宿祢十一世ノ孫ノ望行ノ男ナリ延長八年任土佐守天慶八年三月廿八日任木工頭天慶九年卒作者部類ニ載タリ又紀氏新撰ノ序ニ玄蕃頭従五位下ト記ス又無名鈔云貫之クとしころ住ける家の跡ハ勘解由の小路は北富の小路より東の隅なりト載ス天慶九年ノ卒ハ分明ニ〆墓埋ノ地ハ所拠見ナシ又土佐ノ任国ハ土佐日記ニ詳也本州ニ下向ノ事ハ其徴ナシ或ハ其霊ヲ祠ニ祭リタルハ江州志賀郡正光寺村ニアリ蟻ナシノ宮ト称ス嘗ルニ袋草紙列貫之集曰世の中にけろ日くれおほくて我のこころせざりければ涼

の公忠朝臣のいひけるに此寺をたてんとしてわらく
まうてける日頃に病になりてたえりしぬかりしに
手向せむふるきやとれる月影のあらはなるの代世に社のこれ

此地正光寺村ノ山下林間ニ小祠アリ石燈篭
二基ヲ設テ鳥居モナシ哥ノ意ニ拠レハ墓地
ニモアルヘシ然𪜈江州ニ其因ヲ得ス又本州
ニ墓埋ノ地其徴ナシ今啓ルニ同郡大仰ニ真
盛上人誕生ノ地アリ上人姓ハ紀氏貫之十八
世ノ孫ト相傳ス猶小倭七黨各紀氏ヲ称セリ
然レハ其遠祖ヲ崇メ祀リ墳ニ築キタルナル
ヘシ或ハ紀氏ノ本州ニ遺存メ小倭七黨ノ中
ノ祖ナ墓埋シタル処𪜈謂ヘシ孰レ貫之墳ト
偏ニ称スルハ臆断ナリ今ニ至テ本郡古市村
ニ紀氏ノ裔民間ニアリト云ヘリ旧ト小倭庄
ト称メ東鑑文治三年預所廣元ト載タリ明應
七年ハ新長門守經成總裁メ領ス国司北畠家
ニ属セリ又永禄天正ノ間ハ小泉氏等ノ七黨
領地ノ領スル処ナリ

上村　佐田ノ坤位ニアリ小倭郷ノ内ナリ久居
城ヨリ伊賀州上野街道ニ民居ス小倭上ノ村
ト名ク正税八百八十七石紀州白子領津領
入組ナリ本邑ハ津領ナリ属邑辻村本邑ノ
西ニアリ又一ノ坂其北ニアリ各紀州領ナリ
公牒ニ上野村ト載テ分辨セリ

光曜山成願寺　同処ニアリ真盛宗　開基真盛上人本州三箇寺ノ其一ナリ其餘ハ安濃郡津府ノ西来寺飯野郡射和蓮生寺ナリ　明應三甲寅年當郷ノ住士新ナ門守経成法名真久入道ハ国司教具ノ執政ナリ真盛上人ニ帰メ邸舎ノ傍ニ一寺ヲ創造シ成願寺ト号メ上人ヲ接待シ不断念佛ヲ執行シ一七日法莚ヲ設ク一族百餘人帰入メ自今香華所ニ託シ一紙ノ誓盟ヲ上人ニ呈ス其盟文今ニ當寺ニ蔵メ存セリ　本尊阿弥陀佛及真盛上人自刻ノ寿像アリ上人ノ傳ハ同郡大仰村ノ條ニ詳ラカニセリ

中ノ村　上ノ村ノ巽位ニアリ小倭郡ノ内ナリ伊賀街道ニ民居ス　正税三百九十九石津領ナリ

南出　中ノ村ノ南ニアリ小倭郡ノ内ナリ　正税三百五十七石津領紀州白子領入組ナリ

南出城址　同処ニアリ小倭黨吉懸三大夫入道居セリ天正十二年蒲生飛弾守氏郷ノ為ニ敗メ廃セリ

大村　中ノ村ノ東ニアリ小倭郷ノ内ナリ伊賀街道ニ民居ス隣比ノ諸邑ニ勝レテ大ナリ故ニ名ク正税千七百九十石津領ナリ

垣内（カイト）小倭上村ノ西ニアリ旧名入道垣内ト称

ス今畧メ垣内ト云小倭郷ノ内ナリ安濃津及
久居府ヨリ伊賀州上野城及同州名張ヘ街道
ナリ方俗安保越ト云同郡三渡新田ヨリ月本
小川ヲ歴ヲ大村ニ會シ垣内ニ至リ伊賀州伊
勢地村ヘ至ルナリ　正税九十石津領ナリ

布引山　同郡榊原山堺ヨリ小倭郷ノ西ニ長ク
偃リタル山ナリ形布ヲ偃タルカ如シ故名ク
此嶺ヲ越テ伊賀州ニ至ル或ハ波多横山ハ此
ナリト云ハ非ナリ　鴨長明伊勢記云　二見
わかなし山のほりくは山ぞ遥にみえけり
布引山をみてよめる　又夫木集ニ載ス
嵐ふく雲のはたてのぬきをうすみ村きえわたる布引の山

度會郡二見浦及朝熊嶽ヨリ西位ニ當リテ鈴
鹿山經ケ峯等ノ南ニ連リテ眺望スルニ瞬裏
ニ竜蛇ノ偃カコトシ

稲垣　南出ノ西ニアリ小倭郷ノ内ナリ　正税
四百八十石津領ナリ

稲垣砦趾　同処ニアリ天正年中岡村修理亮居
セリ其男岡村清次郎嗣ヲ修理ト名ク外
戚福田山帯刀ト長野左京進ト常ニ不快ナリ
故ニ修理ムルモ左京進ニ矛盾ス一日安濃津
ニ詣ストテ半田山ニテ遇フ馬ノ鐙ニ支ヘシト
テ修理ムル憤リ左京進ヲ劍ヲ抜テ撃ツ従士
等挑戦フ左京進カ卒鎗ヲ以テ修理ムルヲ突

ク即死ス故ニ左京進民家ニ入テ自殺ス此時
ニ断滅セリ
八對野 稲垣ノ西ニアリ正税千百二十五石
津領ナリ
八對野城址 市川喜兵衛尉領〆居スル処ト云
山田野 八對野ノ西ニアリ正税八百八十石
津領ナリ
山田野八幡城跡 同処八幡山ニアリ天正十二
年長野左京進居セリ織田上野介信包ニ属ス
稲垣岡村修理ムルト争ヒ死ス其趾亡ス事跡前
條ニ載タリ
古市 南出ノ南ニアリ小倭郷ノ内ナリ正税三
百九十四石紀州白子領ナリ
岡村 大村ノ北ニアリ小倭郷ノ内ナリ 正税
二百九十四石紀州白子領ナリ
称明寺 同処ニアリ高五斗二升紀州領主ヨリ
免許
三ケ野 岡村ノ艮位ニアリ小倭郷ノ内ナリ正
税千四百三十五石久居領ナリ 属邑中ノ村
本邑ノ東ニアリ 下ノ村中ノ村ノ東ニアリ
笹ケ原大村ノ東ニアリ三ケ野中ノ村下ノ村ト
方俗分辨〆称ス
大鳥 三ケ野下村ノ艮位ニアリ七栗郷ノ内ナ
リ 正税百八十三石久居領ナリ

一色　大鳥ノ東ニアリ七栗郷ノ内ナリ　正税
九十三石津領ナリ　属邑上垣内本邑ノ東ニ
アリ紀州白子領ナリ　一色度會郡及朝明郡同
名アリ

泉福寺　同処ニアリ紀州領、主ヨリ高一石免許
アリ

多野田　一色ノ艮位ニアリ和名類聚云民太郷
ナルヘシ　正税二百七十三石久居領ナリ
属邑東多野田本邑ノ東ニアリ雜記不載明
暦中後ニ所置ナルヘシ（或ハ多濃田ニ作ル）

中村　一色ノ艮位ニ、アリ七栗郷内ナリ
五百廿七石久居領ナリ　属邑上津前東ニア
リ奄藝郡窪田大宝院領ナリ

森村　中村ノ艮位ニアリ七栗郷内ナリ　正税
千四百四石久居領ナリ　属邑加村アリ本邑
ノ川ノ艮位ニアリ

森城跡　同処ニアリ永禄天正中堀金左衛門尉
居セリ伊勢軍記ニ載タリ

庄田　森ノ巽位ニアリ七栗郷内ナリ　正税四
百九十八石津領紀州領入組ナリ　三百七十八
石三斗三升八合民家七十戸白子領　廿石六
斗四升民屋十二津領ナリ　属邑中川原本邑
ノ南ニアリ　沓掛本邑ノ東ニアリ　入田本
邑ノ西ニアリ　神鳳抄云内宮生田御厨六斗

神風徴古録ニ生田ハ庄田ニ同ク此処ナリト
云然レトモ真否ヲ不知　宇佐八幡祠アリ　紀州
領主ヨリ高一石五斗免許
庄田城址　元久年中庄田三郎佐房同子息庄
田師持等所拠ナリ東鑑第十八元久元年四月
廿一日甲寅晴武蔵守朝政飛脚至着申云去月
廿三日出京爰伊勢平氏等塞鈴鹿関所索嶮岨
之際縦雖不遂合戦人馬依難通之廻美濃國同
廿七日入伊勢国凝計議自今月十日至同十一
日合戦ス先襲進士三郎基度朝明郡富田之舘
挑戦移剋誅基度並松本三郎盛光同四郎同九
郎等次於安濃郡攻撃岡八郎貞重及子息伴類
次到多氣郡与庄田三郎佐房同子息師持等相
戦彼輩遂以敗北ス今晳ルニ東鑑ニ多度郡
ニ到テ庄田三郎ト相戦フト記スハ恐ハ傳写
ノ誤ナルヘシ朝明安濃及一志郡ハ平氏ノ常
居ニメ飯高及多氣度會ニ滝原合戦ノ外ニ平
氏ノ城居スル処ナシ然レハ安濃ヨリ本郡ニ
暨ヒテ此庄田ノ城ナルコ必セリ又庄田ノ徴
ハ朝明郡ニ富田三重郡ニ松本ト次第メ庄田
ノ称ヲ名スルハ庄田ノ城ナリ其餘他郡ニ庄
田ノ名ナシ古今村邑ノ更変ノ称ハ多シトイ
ヘトモ他ニ曽テ無キ処ナリ姑クコヽニ従フ
其倉　庄田ノ坤位ニアリ　正税六十四石久居

領ナリ
石橋　其倉ノ南ニアリ　正税百二石久居領也
大野木　石橋ノ坤位ニアリ小倭郷ノ内ナリ旧名大仰ト録ス　正税六百五十四石津領也
属邑中山本邑ノ巽位ニアリ中村本邑ノ巽位伊賀街道ニ居ス度會郡同名アリ外宮神領目録云外宮當時御勢大之木村米三斗五升入二俵銀拾八匁　大野木川アリ橋ヲ架ス千鳥橋ト称ス其義未詳
真盛上人出誕地同処ニアリ出胎ノ時産湯ノ井ト称スアリ　江州志賀郡坂本郷大窪村戒光山西教寺智禅院中興開山真盛上人ハ本州一志郡小倭郷大仰邑ノ住人孝元天皇四十代後胤土佐守紀貫之十七世孫小泉左近将監紀藤能ノ男ナリ上人幼メ伊勢国司北畠大納言源教具ニ仕フ十四歳ニ及テ遁世薙髪メ台嶽ニ登リ天台律宗ヲ究テ後ニ弘ム今ノ真盛宗是ナリ其長賢才智量アリ国司政具同材親二代上人ヲメ国政ヲ掌シム當時平泰時明應上人ヲ挙庸スルカ如シ後土御門天皇並二條関白殿下將軍義政細川政元畠山義就佐々木秀綱等太ク崇信ス明應四年二月晦日伊賀州西蓮寺ニ寂ス五十三歳　賜謚圓戒国師西教中奥智禅院南無真盛大上人

真盛上人別傳

享保己亥九月　西教兼法勝住持賜紫上人

真際百癡拜撰

戒光山西教寺中興印祖真盛上人別傳上人諱真盛俗姓紀氏貫之十七世孫勢州壹志郡大仰郷人也母西川氏常信地藏大士絶葷腥夢嚥宝珠而生上人蓋嘉吉三年癸亥正月廿八日日出時也因小字曰宝珠丸一日父謂曰汝須出家兼濟自他上人將入寺父重曰汝学道不成不再相見上人恐永離依怙色稍不喜也父以方便呼一侍人曰是児負我命當投大仰河侍人實之如父命合家驚走見之已不可救時祥雲俄起摂上人去致之涯頭合家相携而帰父母難未曾有宝徳元年己巳四月佛誕日上人時年七歳依沙門盛源于懸之光明寺習読内外諸典康正二年丙子四月三日十四歳剃染命名真盛中畧延徳二年庚戌四十八歳弘法勢州建西来蓮生成願三寺明應四年二月晦日酉時於伊賀国西蓮寺迁化五十三歳諡之号圓戒師西教中興智禅院南無真盛上人　西教寺真際評メ曰東山羽林ノ和論語ニ少ク道徳ノヿヲ記セリ彼曰勢州ノ紀氏上部左兵衛少尉光時カ男十四歳ノ時日吉聖真子ノ権現灵夢ヲ蒙リ一生不犯念佛三昧ノ行者ナリ智禅院ト号ス法印三昧院上人西

教寺開山ナリ然ルニ智禅院ハ寂巖カ傳ニモ
載タリ西塔ト一院トシヘタリ當寺旧覚書ニ
モ智禅院トアリ三昧院ノ事ハ分明ナラス聖
真子ハ疑クナキ禅寺ナラン然レ圧十四歳ノ時
トユフ不審ナリ但前ノ時ニ聖真子ノ霊夢ヲ
蒙ルフアリヤ上人国師号ヲ賜事倫旨ナケレ
ハ分明ニ定メ難シ然レ圧伊賀国一国ノ寺社
ノ事ヲ記シタル伊水温故ト云記録アリ全帙
四巻アリ印板ニナシ其中ニ謚ハ圓戒国師ト
記セリ上人入滅ハ西蓮寺ニメ入滅ノフヲモ
三月二日ニ奏ス西蓮寺ヨリト聞ヘタリ廟所
モ西蓮寺ナレハ国師号ヲ下サルヽモ倫旨ハ
定テ西蓮寺ヘ賜タルモノナラン然圧伊州モ
天正ノ兵火ニ寺社悉ク焼西蓮寺モ其災ニ遭
フ故ニ倫旨モ其時ニ焼失シタルニテ有ヘシ
今傳ニ国師ト標スルハ伊水温故ニ拠レリ
真際別傳及評説飯高郡舟生智禅寺旧録ニ載タルヲ爰ニ記ス
勢陽要義一志郡部曰或記云去文明十八年丙
午十二月伊勢國國司発向山田悉令退治外宮
社頭迄悉焼拂其以後又明應二年癸巳八月廿
二日礒城責落数百餘人誅取剃ヘ山田発向於
斉宮頸實撿有之陣所同安養寺也此寺有上人
入御一々次第之御教訓並御開陣可然之旨有
直訴処御同心上聽而安濃津西来寺令帰住其

後依御帰陣延引遺此書 文使ノ僧真明也
先日以参申候趣一々御領掌忝本望候唯今御
神御恐肝要候太神成怒給難翻候仍未御開陣
無之由兼及候無心元候乍次存分趣申候凡於
日本三国司在之其中別而當家者村上天皇御
孫久我嫡家北畠御家公家乍武家御振舞中間
太刀被持候事限當家兼及候而王孫断絶天下
御望依御座先御代普光院御時神三郡山田限
筋逆橋被成御判候事為御計畧歟兼及候就其
抗節聽御所様御他界候間御成敗實義成由兼
及候今度御退治此趣候歟雖然伊勢十三郡自
川北八郡南五郡ノ内神三郡申候事無餘義候御
知行御成敗乍申神慮難計候中略乍悍存分申
候所詮先両所閣被昴此間御知行分今度御知
行思召留候者若御運命扣候者耶其防年々之
儀一々非神忠候間不審候早々御開陣候者外
聞不可有御不足候以参雖可申入候別時念佛
不得隙候間以書状申候恐惶謹言

九月十三日 真盛判

北畠少将殿

人々御中

今詳ニスルニ雑記所載真盛上人傳ハ伊水温
故伊賀州阿拝郡長田庄長田村醫王山西蓮寺
ノ傳記ヲ摸メ載タリ上人誕生ノ地ハ此地ニ

メ入寂ハ伊賀州西蓮寺ナリ墓アリ循傳記等
詳ナリ伊賀国登清訖誌ニ載テ詳ニセリ併晳
フヘシ

波多横山

万葉集第一　明日香清御原宮御宇天皇代十
市ノ皇女参赴於伊勢神宮時見波多横山巌吹
黄刀自作歌
河上乃湯都磐村二草武佐受常丹毛冀名常
處女煮手
本居宣長菅笠日記云　吉野紀行ナリ　大のき川大社
なる川なり雲出川のかみになんとそいふ此川
のあたりも猶同し里ふりしるしとそ立なさけり

さて川邊をのほりゆくあひたのみちいと
よし大社なる巌とも山にもみちにもあまた
川のなかにもいと多くてことやうに黒瀬なん
どもあるをえくゞしさるいとおそろしかり
吹黄刀自かよめりし波多横山のいはほを
いふなる此ほとりなるへし縣居の大人もいはれ
きしも実にさもあらんかし淡康ふそかはあ
としてあんなる巌をもやくいつくなりけり
勢陽雑記云湯津波村関ノ地蔵中町ヨリ二丁
ホト北ニ川上ト云処ナユツハ村ト云ヘリ村
ト云ヘキ民家ナシ昔ノ寺地ニ丁ホト北ニア
リ云云続後拾遺歌一首及白河殿七百首歌一

首ヲ引證セリ万葉集ノ歌十ニ　伊勢名所拾
遺　湯都盤村鈴鹿郡　万葉吹黄刀自及続
後拾遺玉吟集夫木集名寄白河殿七百首各七
首ヲ引徴メ其注ハ勢陽雑記ト同シ雑記所載
コヽニ拠ナリ今詮スルニ伊勢名所拾遺ニ
万葉吹黄刀自ノ歌ヲ載ル拠テ諸本皆コレニ
倣テ鈴鹿郡川上ノ地トス湯都磐村ハ名所拾
遺ノ牽強ニメ只続後拾遺及白河七百首ニ到
マテユツハ村ト咏ス即出羽村ノ轉ニメ鈴鹿
郡ニ古昔存メ今廃セシナリ其條小野村ノ號
ニ詳ニセリ又湯都磐村ハ日本書記神代一書曰
伊弉諾尊遂抜所帯十握劔斬軻遇突智為三段
此各化成神也復劔刄垂血是為天安河邊所在
五百箇磐也又軻血激灑沫於石礫樹草ト同ク
唯磐石ト填テイハムラト訓ス村ノ字ニ拠テ
村邑ノ事トスルヿ勿レ又常磐堅磐ハ旧事記
日父山祇命白送言我之女二茲立奉田者天神
御子之命雖雪零風吹恒如磐石而常石堅石不
動坐文日本書紀曰生児永壽有如磐石之常存
万葉集云常處女或常宮ノ類コレニ同シ此
哥ノ意ハ日本書紀天武巻ニ天皇四年乙亥二
月乙亥朔丁亥十市皇女阿閉皇女参赴於伊勢
神宮湯津ハ巌ナリ湯ハ五ト通ス湯津ノ爪櫛ト
同シ此巌ノ巌ニ美ナルナ不老メ長ク見ニト

謂ナリ然レハ湯津磐村ト云村邑ノ意ナシ何ソ荒唐ナル地名ニ填テ其徴トスルハ甚非ナリ又波多ノ横山ト徴スルハ此処ノ巽位ニ同郡八太村アリ延喜式波多神社坐シ和名類聚八太郷ナリ然レハ此地モ八太郷ノ内ナルヘシ故ニ前人皆此地ノ有トス猶古昔ノ大倭ノ京ヨリ本州ヘ至ル街道ナレハ十市皇女阿閇皇女ノ巡輿セシ処トスモ宜ナリ然レトモ此説ニ拘泥セス深ク辯ルニ万葉集見波多横山巌ト作レハ敢テ溪川ノミヲ指スニ非ス然レ𪜈此地山谷ニモ巨巌ハ多シトイヘ𪜈殊ニ大仰河ト称スル処ニ甚多シ一槩ニ拘リ難シ

況大和州山邉郡仲峯山村ニ波多ノ横山一名仲峯山ト称シ又延喜式内神波多神社坐又式内波多ノ甕(ミカ)井神社同州城下郡羽内村ニ坐ス其地ニ波多ノ横山ト称シ又仲峯山ト村名ニ呼フ処ナリ明日香清見原ノ宮ノ旧址ハ高市郡上居村ニアリ天武帝即位元年迁都ノ地ナリ即同郡飛鳥村ノ隣比ニメ同州長谷ニ通シ又波多ノ横山ハ長谷ヨリ波市ニ過ル邉ニアリ彼同集ニ隠の山をいつか越なん人ノ歌モ伊賀州名張郡ニ充ツ孰レ伊勢行幸ノ時或ハ斎宮群行ノ時ノ經路ニメ大倭州ニアリ𪜈スヘシ同日ノ譚ナリ妄ニ本州ノ有トノミ決シ難

之其地ノ分野ヲ親見メ古ヲ譚ヘキソ尚古ノ一端ナリ異説ヲ設クルニ非ス看官ノ訂正ヲ冀フカ故ニ標ス

井生 大野木ノ川ノ坤位ニアリ山間ニ居ス正税千石 内二百石万治年中水損 紀州白子領ナリ属邑平尾アリ井生堰ト称ス大堰アリ耕田ノ用トス

○白山権現 同処山上ニアリ

川口 井生ノ西ニアリ山間ニ居セリ川口総名ニメ属邑多シ方俗川口谷内ト云正税九百六石五斗八升民居三百戸津領ナリ旧領ハ惣計三千七百七十二石トス○属邑 御城市場 南ニアリ 馬場 御城ノ東ニアリ 出湯 旧瀬古 箕飯馬場ノ北ニアリ 上野 箕飯ノ艮位ニアリ 以上紀州領 山尾田 井生ノ西ニアリ 御衣田 小野 山尾田ノ西ニアリ 岩脇 上田 小野ノ北ニアリ 杉カ瀬 上田ノ艮位ニアリ 中野 ふけ 並木 的場 筏 以上津領ナリ上件大畧十七村トス其餘ハ小字ナリ本邑ト称スルナシ

勢陽五鈴遺響一志郡巻之一終

勢陽五鈴遺響壹志郡巻之二

川口関址　的場村ノ南ニ旧址アリ往昔関隘ノ所置ナリ是大和州ノ帝都ヨリ伊勢行幸或ハ斎宮群行ノ旧逵ナリ　萬葉集第六　冬十月依太宰少弐藤原朝臣廣嗣謀叛発軍幸于伊勢之時河口行宮内舎人大伴宿祢家持作歌

河口乃野邊にいほりて夜更れハ妹かたもとしおもほゆるかも

新後撰　　後嵯峨院御製

くもりなき月とみれとや川口の関のあら垣もることなからん

新千載　　よミ人しらす

川口の関のあら垣いかなれは夜乃かよひちゆるさゝるらん

新續古今　前参議雅有

川口の関のあら垣あふことはまとをなりとも心へたてな

藻塩草　まこと左大臣

川口の関の荒垣あれはてゝ我床の志のひしけり

堀河百首　隆源法師

かよふ人もまれに絶ぬ川口の関のくきぬきたえやしぬらん

仝　後小松院御製

するあれひまこそなけれ川口の関のあら垣ゆるくあれとも

藤裏葉巻

もりにけるくきたの関を川口のあさきにのみはおほせさらなん

名所拾遺云又岐田ノ関ハ河口ノ関ヲイフニヤ

北畠権少将源國永集

むへなれや雁のなくなる川口の関ちかしとも聞くこともあつは詠

聖武天皇行宮趾　續日本紀十三　天平十二年十一月行幸條云同乙酉到伊勢国壹志郡河口頓宮謂之関宮也　同丙戌遣少納言従五位下大井王並中臣忌部等奉幣帛於大神宮車駕停御関宮十箇日是日大將軍東人等言進士無位安倍朝臣黒麻呂以今月廿二日丙子捕獲賊廣嗣於松浦郡値嘉嶌長野村詔報今覧十月廿九日奏知捕得逆賊廣嗣其罪顕然不在可疑宜依法処決然後奏問　同丁亥遊獵于和遅野免當国今年租　同戊子大將軍東人等言以今月一日於肥前国松浦郡斬廣嗣綱手已訖菅成以下

従人已上僧二人者禁止身置大宰府其歴名如
別　同乙未従河口発到壹志郡宿　同丁酉進
至鈴鹿郡赤坂頓宮　丙午従赤坂　癸未到朝明
郡　戊申到桑名郡石占頓宮　己酉到美濃国当伎
郡　庚戌賜伊勢国百年以下八十歳已上者大税
各有差　今詳ニスルニ天平十二年廣嗣カ乱
ヲ避テ聖武帝本州ニ潜幸シ美濃州ニ至リ不
破郡不破頓宮ニ坐シ近江州ヲ経テ山城州相
楽郡恭仁宮ニ迸御ノ次第上件ノ国史ニ詮ナ
リ又和遅野遊猟ノ地今替ル処詳ナラス孰レ
川口ノ関ニ通キ処ナルヘシ凢テ此街道ハ光
孝天皇仁和年中ノ前ハ大倭ノ京ヨリ伊賀州
名張郡ヲ歴テ本州ニ至リ本郡波多宮古一志
ノ駅飯高郡石津清水多氣郡斎宮及小俣ニ至
リ大神ニ奉幣使斎宮群行等ノ駅路ナリ又
河口皇居ノ地ハ河口ノ内王住ト云地アリ方
俗藤原千方居城セシ処ト云憶フニ是王住ノ
名ニ拠テ千方ヲ王ト称スヘキナラン即皇居ナ
ルヿ明ナリ

川口城址　同処ニアリ鹿々氏玄蕃正居ス北畠
家ニ属セリ

南家城　河口市場ノ西ニアリ正税　津領紀州
白子領入組ナリ

白山権現　俗習ニメ小倭郷ノ内往々祀レリ本

邑ト北家城ノ中間ヲ雲出川流ル水源ニメ瀬戸カ淵ト称ス巨嵓奇石多ク激流ノ処ナリ其崖頭ニ鎮徳上人笈掛岩ト称ス怪嵓アリ往昔能登州ヨリ上人白山権現ヲ笈中ニ負奉リ此処ニ至テ此嵓上ニ休憩メ居ク白鷺七羽ニ化メ其神七処ニ飛行小倭七処ニ止ル其処ニ祠ヲ営メ奉祀ス今小倭ノ竹原飯福田山田野八対野井生　川口家城ノ七処ナリ上人ノ墓ハ竹原白山権現ノ祠傍ニアリ家城村白山社領高三斗五升免許アリ今詮スルニ鎮徳上人ノ負笈ノ説モ越大徳泰澄ノ傳ニ雷同メ（羅山神社考白山ノ部ニ見ル）佛ノ因ニ拠テ本州佛刹ニ往々鎮守ノ此神ヲ祀ル処多シ日本書紀ニ拠レハ菊理媛神及伊弉諾尊泉守道者神三座トメ所謂加賀白山三所権現ト称スヘシ神傳云泉守道者ハ伊弉諾尊ノ和魂菊理媛ハ同荒魂ナリ併祀リテ三坐トスル処ナリ」今親見スルニ瀬戸カ淵笈懸岩ノ傍ニ御杖ノ木ト称スル巨樹アリ鎮徳上人ノ杖ヲ植タルカ自枝葉ヲ生メ茂盛スルト云方俗傳アリ又深淵ノ両崖ニ杜鵑花多シ春夏ノ間ハ甚愛ニ堪タリ此岸ノ嵓ニ海産ノ物往々アリ山溪ノ間ニ散在ヲ謂ナシ其故ヲ委クスルニ多氣国司舘舎ヲ經営スル時泉石ノ用ニ伊勢嶋及志摩州ノ

管内ノ領ナル故ニ奇石ノ多聚テ海上ヲ船ヲ以テ運ニ雲津川ヨリ水源ニ人力ヲ以牽入ケルニ巨嵓ノ溪淵ニ没メ其運ヲ得難キハ半途ニメ此地ニ弃捨タルカ遺レリ故此隣比ノ村邑ニ多氣ノ石牽謡トテ今ニ至リ農夫ノ口碑ニアリ其槩云已|ク敵とかゝめなれと跛なきと多氣代やかゝの石牽の音聞え里寺ノ俗謡ヲ存ス同郡多氣真善院ノ庭中ニ泉石ノ趾今ニ遺ル熟視スルニ各海産ナリ旧傳ニ謂フ処敢テ証難ニ後號同郡上多氣ノ條ニ載ス雲津川ノ水源此地ニ藤原千方石ト称ス常ニ逍遙メ魚ヲ釣タル処ト云巨嵓アリ又紀友雄大力洗水ト称ス激流アリ千方カ事蹟ハ後號同郡城立及竹原ニ詳ニセリ

家城砦址　同処ニアリ北畠家族下家城主水正居セリ今其旧庵ハ氏家ノ傍簒ノ中ニアリ古井今ニ存セリ

速総別皇子及女鳥皇女陵墓窟　北家城ノ南八手俱河ノ頭ニアリ方俗夫婦窟ト称ス寛保中東都菊岡米山諸国里人談云勢州一志郡八俣河斂カ淵ニ方一丈餘ノ岩嵓アリ寛文ノ頃此窟ノ中ニ人アリ河向ノ家城村ヨリ是ヲ見テ怪ミ里人筏ヲ組テ其処ニ至ル三十計ノ女髮ヲ乱メ空サマニ髮ノ末ヲ土ノ嵓ニ漆膠ヲ

以テ付タルコトクニ釣シテ苦氣モナキ体ニテ宙ニアリ里人抱下サントスルニ髮放レス宙ヨリ髮ヲ切テ下シ里ニツレ行水澆キ薬ナト與ヘケレハ正氣ト成リ又次第ヲ問フニ前後ヲ不知美濃國竜ケ鼻村（濃州安八郡竹ケ鼻村ナルヘシ）長ノ妻ナル由ヲ荅フ此処ハ津ノ領分ナレハ政所ニ訴フ国主ヨリ濃州ニ通ラレ迎ノ者多勢来リ具メ帰リヌト云云今此怪譚ヲ替ルニ或云是伊勢国俗云七不思議ノ一ニメ字ハ夫婦窟ト称ス里俗傳云此窟ニ入ルモノ多ク髮毛ヲトラル、怪アリト云今憶フニ前説此窟ハ即仁德天皇ノ朝隼別王及嶋鳥皇女ヲ陵墓ナリ後世ニ到リ廃メ嵓窟ノ如クニ頽タルナルヘシ日本仁德紀云天皇四十年春二月納嶋鳥皇女欲為妃以隼別皇子為媒時隼別皇子密親娶而久之不復命於天皇不知有夫而親臨嶋鳥皇女之殿時為皇女織縑女人等歌曰

比佐箇多能阿梅箇儺麿多謎廼利餓於瑠箇儺麿多波揶歩佐和氣能渉於須譬鸖泥

爰天皇知隼別皇子密婚而恨之重皇后之言敦干支之義而忍勿罪俄而隼別皇子枕皇女之膝以卧乃語之曰孰捷鷦鷯与隼焉曰隼捷乃皇子曰是我所先也天皇聞是言亦起恨隼別皇子之舎人等歌曰

破夜歩佐波阿梅珥能明利等弭箇慨梨伊莵
岐餓宇倍能波峡伎等羅佐泥
天皇聞是歌而勃然大怒之曰朕以私恨不欲失
親忍之也何釁矣私事将及社稷則欲殺隼別皇
子時皇子率嶋鳥皇女欲納伊勢神宮而馳於是
天皇聞隼別皇子逃走即遣吉備品遅部雄鯽播
磨佐伯直阿俄能胡追之所逮即殺云云雄鯽等
追之至莵田迫於素坦山時隠草中僅得免急走
勿越山於是皇子歌曰
破始多弖能佐餓始枳椰摩茂和藝毛古等趣
駄利古瑜例磨椰須武志呂固茂
爰ニ雄鯽等知免以急追及于伊勢蔣代野而殺

之云云紀中所謂莵田ハ今大和国宇陀郡宇陀
ナリ素坦山ハ同州同郡漆部郷曽爾谷ナルヘ
シ伊賀州名張郡ニ隣比ス処ナリ伊勢国蔣代
野ハ今考難シ疑クハ伊賀州名張郡薦生村ナ
ルヘシ大和国ヨリ本州ニ至ル順路ニメ旧ト
伊賀州ハ伊賀風土記云伊賀国者往昔属伊勢
国大日本根子彦大瓊天皇御宇癸酉分而為伊
賀国云云續日本記云伊賀国者天武天皇白鳳
九年庚辰七月割伊勢国四郡立彼国云云又倭
姫命世紀鷟頭云按国造本紀云伊賀国難波朝
御宇隷伊勢國飛鳥代朝割置如故ト云片ハ其
往昔ハ本州ヨリ分置処ヲ仁徳天皇朝ニ復本

州ニ隷属シ天武天皇朝ニ再ヒ旧ノ如ク今分置トスト見エタリ然ルヰハ仁徳天皇紀ニ伊勢蒔代野ト載ラルハ伊賀ノ国ナルヘシト云モ妄ナルヘカラス然レ𪜈此家城村ノ嵓窟ヲ二皇兒女ノ塋地ト指スヰハ其誅戮スル地ハ伊賀国ニアリトスハ遥ナルニ似タリト云ヘ𪜈陵墓ハ其地ヲ撰テ所築ナレハ本州ノ地ニ造ルモ故ナキニ非ス孰レ蒔代野ノ名ハ其真ヲ得スト云ヘ𪜈方俗夫婦窟ト称シ前件ノ竒怪アルニ拠レハ神霊ノ區ト謂ヘシ二皇公子ノ陵墓トスルモ然ナリ猶前輩風土記所言ノ蔫生野ハ三重郡菰野ニ充ルハ非ナリ其條ニ詳ニス併稽ヘシ

北家城南家城ノ川北ノ岸ニアリ正税四百廿八石紀州白子津領入組ナリ諸国里人談云一志郡家城ノ里ハ手俣河ノ水上ヨリ挑燈ホトナル火河ノ流ニ添テ下ルヿ水ヨリ速シ是ヲ千方ノ火ト云昔藤原千方ハ此処ニ住ケルトナリ大手ノ門ノ礎ノ跡今ニ存セリ夫ヨリ籏屋村的場村丸之内村三ノ丸三丸本丸ト云村々アリ今凡七千石許ノ処ナリ千方ハ今見大明神ト云則此処ノ生産神ナリ伊勢名所集云河口関一志郡河口トハ十六郷ノ惣名ニメ関ハ何レノ処ニアリ𪜈不知津ヨリ坤四里

藤原千方カ碑河口ノ上田村ニアリト十二三云今詳ニスルニ分部及本邑ニ燐火アリ夏秋ノ間激雨ノ夜多ク出方俗怪異トスルニ拠テ藤原千方カ寓説ニ因テ其名ヲ称セリ此書ハ寛保年東武菊岡沾涼所著ニメ巷説俚語ヲ摘テ記ス其真ヲ探ルニ非ス大城門ノ礎ハ此地ニ非ス簱屋ハ八手俣ノ訛言ニメ簱本ノ誤ナリ的場ハ河口谷ノ内ニアリ丸ノ内三ニ本丸等ノ名ナシ今見ハ真見ノ謬ナリ上田村ノ碑ハ妄傳ヲ摸メ竜尚舎懸近所撰名所集ニ拠レリ各非トスヘシ詳ニ後號本郡城主ノ條ニ排付メ論セリ併誓ヘシ

真見　南家城ノ西ニアリ　正税百九十九石津領ナリ方俗傳云天智帝朝ノ逆徒藤原千方ヲ紀友雄家城ノ瀬戸淵ニメ斬ル其首雲出川ヲ流レテ飛行ス探尋ルコ二十餘町ニメコレヲ得タリ故ニ真見ト名ク其事實後號ニ詳ニセリ

真見城址　天正年中福田山帯刀居セリ稲垣ノ城主岡村修理允カ外戚ナリ

藤村　真見ノ北ニアリ　正税三百四十九石津領ナリ

二俣　藤村ノ坤位ニアリ　正税四百十石津領ナリ

城立　二俣ノ西ニアリ俗傳ニ藤原千方城ヲ築
タル故ニ城之ト名ク　正税百七十八石津領也
藤原千方窟　同処山上ニアリ
相傳云天智天皇朝ニ藤原千方将軍王命ニ叛
キ伊賀伊勢ノ二州ニ横行ス其居地伊賀州
高尾村ノ乾ニアリ峯ヲ渉リテ本州一志郡庄
内ノ郷ニ到テ城塁ヲ設営ミ謀畧ヲ以テ四鬼ヲ
従ヒ逆意アリ紀朝臣友雄勅ヲ奉メ追討使ニ
補セラレ本州ニ下向メ千方ヲ謀リ出シ家城
ノ瀬戸淵ニ射殺セリ其首雲津川ヲ慕ヒ溯リ
テ飛行ス探追フコ二十餘町ニメ得タリ首ヲ
始テ見タル処故ニ真見ト名ク同郡真見村ア
リ城塁ヲ築タル地ヲ城之ト称ス其山上ニ字
千方屋敷ト称スアリ其頸ヲ同郡八手俣ニ祀
リテ毎例十一月五日祭アリ方俗君ノ祭ト称
ス其地ヲ君カ野ト称ス八手俣旧名簱本ト名
ク千方カ軍ノ簱本ト云意ナリ其骸ハ雲津川
ノ末流ニ至テ川口ノ内上田ニ停ル其地ニ塋
埋ス墓墳アリ及石塔ヲ建ツ俗傳勢陽雑記ニ
所載ナリ林羅山神社考曰世傳千方者天智
帝之叛臣也千方役使四鬼所謂金鬼風鬼水鬼
隠形鬼也在伊賀伊勢之間不順王命於是勅紀
友雄討千方友雄乃往詠和歌送之
久佐茂幾茂和可於保幾美能久尓奈戻波伊

豆久詞於尓能須美可奈尚部爰
諸鬼讀之感而散去千方失勢友雄終討滅之案
千方事未詳而俗説所傳尓多坂上田村麻呂討
鈴鹿山之鬼源頼光與貞道末武公時綱保昌等
為山伏貌入大江山殺酒顛童子又令渡邉源五
綱撃羅生門鬼又撃和州宇陀森鬼得其腕頼光
獲其首多田満中軌信濃国戸隠山之鬼餘五將
軍亦殺戸隠山之鬼此之類世之所称有之乎
伊水温故引旧記云千方ニ四鬼従フカ故ニ不
屈尓ル処ニ河内国大領納言ヲ勅使トメ発向
シ一首ノ御製ヲ箭ニ付テ敵陣ニ射セシム四
鬼是ヲ見ルニ

艸も木も我大君の国なれはいつくか鬼のすみかなるらん
トノ御詠哥ナリ四鬼勅哥ヲ見直ニ吾国ニハ
アラシトテ忽化生ノ形トナリ大地ヲ陥破テ
奈落ノ下ニ蔭没ルト云其跡トテ今ニアリテ
地ニ穴アリ風氣ノ通フヿ歴然ナリ千方四鬼
ニ棄ラレ三国カ岳ヲ逃去リ勢州家城ノ瀬戸
カ淵ニテ殺サルル紀ノ朝雄頸ヲ捕テ帰洛スト
云伊賀州伊賀郡霧生村ノ三国カ岳千方将軍
篭居ノ地ナリ谷ハ南北十五間東西八間ノ屋
敷跡アリ北向ナリ石ノ柱二本アリ長一丈一
本ハ折タリ北畠准后親房伊賀記曰村上天
皇代沛宇小藤原千方正二位を聊カ望ミしに

その甲斐なかりけれハちゑを逆心して日吉
の非禮をなし伊賀之國にさけまとりこもり
千方よさかりに西北山法師山注龍之何坊兵
庫北堅者源紫坊この四人をかれよ従ふ此山法
師ちかちから大木をたふし勢ひ岩石を砕る四
へり官軍多く討れて既に川退くへきを討手
の大将紀朝雄六根清浄北中臣祓を誦して
神功なましひなりけりしかや千方頭を捕北すな
に終り果に紀か計ると逆柳と申たゝしく今東條
か宅地のうらむさおおへつり伊勢甲和鄉にも
遺跡なる旗原子峯といふその子孫か
淸ラ討将軍本国法云々　伊水温故評云世ニ

云火鬼水鬼土鬼隠形鬼ノ四鬼ハ先注ノ法師
等カ術ナリ火鬼ハ身ヨリ火ヲ出メ敵陣ヲ焚
水鬼ハ大水ヲ湛ヘテ群敵ヲ防ク土鬼ハ須臾
ニ大山ヲ眼前ニナシテ敵ヲ迷ハス隠形鬼ハ
已カ形ヲ隠ス是皆四人ノ法師カ所業ナリト
云フ

○○藤原大系図云天児屋根命 此間廿一代 鎌足
不比等　房前 魚名　藤成 伊豫守従四位下
豊澤 備前守従四位下　村雄 河内守従五位下　秀郷 武蔵守従
四位下 世称俵藤太　千常 左衛門尉従五位下　千方
今詮スルニ藤原千方四鬼ヲ使テ帝朝ニ叛ク
ト謂フハ旧ト太平記第十六日本朝敵ノ條ニ

天智帝ノ御宇ニ藤原千方ト云モノアリテ金鬼風鬼水鬼隠形鬼ト云四ノ鬼ヲ使ヘリ伊賀伊勢ヲ押領ス紀友雄宣旨ヲ蒙リ彼地ニ下リ一首ノ歌ヲ咏メ彼鬼ニ送リケル四鬼悪逆ノ臣ニ任ルヿヲ慙テ匿失ヌ故ニ千方勢ヲ失メ友雄カ為ニ誅セラル由ヲ載タリ藤原姓ハ天智天皇八年始テ大織冠鎌足ニ賜ヒテ大系図ニ其時ニ藤原千方ト称スナシ大平記ニ同条ニ云神日本磐余彦天皇御宇天平四年ニ紀州名草郡ニ土蜘ト云モノアリ云々今晳ルニ釈日本記引摂津国風土記曰宇、称備能可志波良能御宇天皇世偽者土蜘蛛注云此人恒居穴中故賜賤号曰土蜘蛛既ニ日本書紀神武巻ニ所載ナリ天平四年ハ聖武天皇ノ時ナリ何ソ神武帝朝ニ天平ノ年号アルヘキ故ニ其杜撰妄誕例メ識ヘシ然ルニ伊賀記ニ所謂ノ村上天皇ノ朝ニ従フヘシ蓋大系図ヲ徴メ俵藤太秀郷ノ孫千方ト例スル片ハ村上帝ハ大暦ノ朝ナリ秀郷ハ後冷泉天皇康平年中ノ人ナリ百十餘年後ニメ其孫ノ天暦中ニ存世スヘキ理ナシ是モ鹵莽ナリ村上帝朝ニ千方ト称ス数臣ノアリタルハ知ス大系図ニ所載ハ千方ニメ千方ニ非ス千行同訓ナリ其餘千方四鬼ノ説ハ国史及實録ニ所見ナシ　本朝通記巻二

景行天皇條云熊襲謀反日州不朝貢冐川縣掠
略疆界於是邑長速津媛迎車駕曰茲山有大石
窟曰鼠石窟有数寇一曰青二曰白三曰打猨四
曰八田五曰国摩侶此五寇強力暴逆集衆逆命
於是帝權造行宮于來田見邑以居之乃與羣臣
相議曰今多動兵衆以討之畏隱山野必為後愁
不如急襲之簡猛卒穿山排草襲之軍急迫青白
二寇不能拒戰皇軍進悉殺其黨是青白已下ノ
五寇ヲ載スルニ同タ此等ノ遺事ニ拠テ金鬼
風鬼水鬼隠形鬼ノ名ヲ設ケテ妄作スル処ナ
ルヘシ　或云古今集序ニ和哥ノ徳ヲ賞メち
からをもいれすして天地をうこかし目に見
えぬおにかミもあはれとおもはせト紀氏ノ
所録ニ同シコヽニ拠テ上古ヨリ妄譚ヲ設ク
モノ多シ真ニ然リ後世ニ至テ雅俗奇ヲ説テ
其州其土ニ所傳メ弊習多シ其徵ヲ得サルハ
省テ論スヘカラストイヘトモ典故ノ志黙スル
ニ忍スコヽニ標出ス

福田山　城立ノ坤位ニアリ山間ニ民居ス　正
税百五十五石津領ナリ

八手俣　南家城ノ南ニアリ山間ニ民居ス　正
税四百十一石津領ナリ内今計ルニ四百四十
石六斗一升六合旧名簱ト記セリ前ニ辨ス
屬邑多シ　小河内本邑ノ坤位ニアリ　宿平

尾小河内ノ坤位ニアリ　君ケ野宿平尾ノ北ニアリ脇野君ケ野ノ乾位ニアリ　雑記所載藤原千方カ首ヲ籏本村ニ祀リテ霜月五日毎式祭礼アリ俗君ノマツリト云其里ノ名モ君カ野ト云云　北畠権少将国永集云　二俣の上より君か野といふ所をとほりけるとて　八月なり

君か野を我かたをけれは少年の折としては年れ浅をこえん

今詮スルニ源国永家集ニ所詠ハ君カ野ノ本拠ニ因テ標ス処ナリ前ノ聖武天皇潜幸ノ時川口関宮ヨリ此野ヽニ遊猟ノ地ナルコ必セリ関ノ宮ノ遺址的場ヨリ八手俣ニ至ル稍クニ里許樱峠越ト云隣比ノ邑ナリ　續日本紀第十三天平十二年十二月甲申朔丁亥遊猟于和遅野免當国今年租云云此ニ云和遅野今謂君カ野ナリ其祭祀十一月五日トスルモ天平十二年十一月甲申朔ヨリ計スルニ第四日丁亥ナリ今ノ祭祀スルノ前日ニ當レリ方俗君カ野君ノ祭ト称スルハ上古租税ヲ免除セラル顧恩ヲ報ス祭祀ノ遺習ナルヘシ千方カ習俗ノ流毒ヨリ皇恩ヲ忘失セルハ亦歎スヘシ千古ノ遺憾ヲ意フニ臆断ニ似タリトイヘトモ未遠ノ確論ナリ

竹原　八手俣ノ坤位ニアリ竹原谷ト称ス　正

税七百二十八石紀州白子領ナリ　属邑多シ
持経　八手俣脇ヶ野ノ坤位ニアリ
瀬木　持経ノ坤位ニアリ　中原　瀬木ノ南ニアリ　掛脇　瀬木ノ坤位ニアリ　小原　掛脇ノ坤位ニアリ　波田　小原ノ南ニアリ
雑記不載明暦中ヨリ後ニ所置ナルヘシ
御厨　三ヶ野寺アリ
白山権現祠　同処ニアリ高二石紀州領主ヨリ免許アリ

八知　竹原ノ坤位ニアリ八知谷ト称ス安濃津府ヨリ坤位八里　正税千百二十九石五斗民家百三戸津領ナリ　属邑大野　竹原ノ小原ノ西ニアリ　須ヶ淵　大野ノ巽位ニアリ　橋　須ヶ淵ノ坤位ニアリ　平尾　橋ノ南ニアリ　灰ヶ野　平尾ノ南ニアリ　小西　橋ノ西ニアリ　小田　灰ヶ野ノ南ニアリ　市場　小田ノ西ニアリ　大御堂　市場ノ南ニアリ　新堂　大御堂ノ南ニアリ　老ヶ野　新堂ノ西ニアリ　比津　新堂ノ巽位ニアリ　東川寺ナリ　産物紙ヲ漉出ス又炭多ク鬻ク八知炭ト称ス

上太郎生　八知老ヶ野ノ西ニアリ安濃津府ヨリ坤位十二里本郡坤位ノ極界ニメ大和州宇陀郡界ニアリ　正税五百廿一石津領ナリ

属邑中大郎生本邑ノ艮位ニアリ　下大郎生中大郎生ノ北ニアリ　猿子　下大郎生ノ乾位スアリ旧名鱈尾或多羅尾ト録セリ近江州ニ多羅尾同名アリ旧名鱈尾ナリ其地ヨリ轉シ來テコヽモ鱈尾ト称セシナ今大郎生ニ轉訛セシナリ　北畠材親記曰むかしき濤殿の餘流にて鱈尾といふ者よこきにより此国へ来り住み侍りそれかまた通方卿の娘なれはきすかしむかしにそて住みけりこれこのら通方の心もみそかり来りたまはれねるかもゐとらそれ中かいせの公家石といふた通方にのせうまうたまりなふ　襟せいたり　今詳ニ

スルニ　通方ハ北畠准后親房ノ祖父中ノ院大納言通方卿ナリ（中垣内ハ中大郎生ノ了ナリ）

大悲山仲源寺　下大郎生ニアリ真言宗　此地ハ伊賀州伊勢大倭州ノ三国ノ堺ナリ　往昔不動明王三軀ヲ安ス其二軀ハ木佛ナリ一軀ハ石佛ナリ昔兵革ノ時焼亡ス石佛一軀ナ今安セリ弘法大師作ト云　本堂ト方丈庫裏ノ間ニ溪澗ヲ隔テ独木橋ヲ架ス伐木鳥邑ノミヲ聴テ幽棲閑寂ノ浄地ナリミ

御嶽　ハ知老鹿野ノ坤位ニアリ同郡杉平ヨリ北十町山上ニアリ安濃津府ヨリ坤位十里三多氣或ハ三竹或ハ斎嶽トモ俗称セリ　正税百

三十石津領ナリ　御嶽山アルニ拠テ名ク

御嶽権現本邑ノ北ニ高ク聳タル御嶽ト称ス山アリ其山ノ山腹ニ坐ス東ハ本州西ハ伊賀州南ハ大和州宇陀郡ニ跨リテ近邑ノ中ニ突起シ高嶽ナリ御嶽ト称スルハ大和州金峰山ヲ此ニ移スニ拠リテ其名ヲ称スナルヘシ

蜜嶽山　金峯寺真言宗本堂蔵王権現右脇檀弥勒佛中尊釈迦佛左脇千手観音ヲ安置ス其餘十六社アリ左ノ三社ハ右熊野権現中勝手明神左辨才天女右脇ノ三社ハ右天照大神中子守社左八幡宮ナリ各本堂ノ左右ニ坐ス石階三十七級下リテ御手洗池アリ左ニ二間六間ノ拝殿アリ右三間七間ノ客殿アリ又石階八十六級下リテ黒木ノ鳥居アリ此柱ハ西ハ和州東ハ本州ノ国界ナリ本堂ノ正面ヲ限リ半ハ各二州ノ界域トス鳥居ノ前ヨリ山下ニ至リ櫻ヲ行樹左右ニ並ヘリ春時ハ花香爛熳トシ馥郁タル壮観ナリ凡テ山中和州金峯山ヲ迂シ蔵王権現及勝手子守神社等ヲ設ケ営メリ故ニ櫻樹ヲ多ク移シ栽ル処ナリ御嶽及蜜嶽ノ名モ然リ例祭正月十日三月十日十二月十日土人正月十日ハ流鏑馬ヲ執行ス神前ニ菜蔬ノ供ヲ献シ鳥居ノ前ニ二人立並テ箭三手ヲ射ル其的ハ溪間ヲ隔テ三十間許

ニ居ク本邑ニテ執行人四人ヲ定メ隔番ニメ
毎歳前年ノ正月ヨリ獣肉不浄ヲ禁食メ親戚
ニ死穢アルハ其人ヲ除ク故ニ四人ノ黨ノ内
其穢ナキヲ擇テ執行ス四人其觸穢アル井ハ
其祭禮ヲ停ム是ヲ大黨ト称ス亦射人ハ一七
日潔斉メ薦ニ臥メ愼ミ守リテ務ム的ヲ掌ル
者モ然リ一年ノ禁戒ヲ同事ニ謹テ前九日ニ
的ヲ立ツ是ヲ的ノ黨ト称ス的ノ大濶五尺三
寸矢数多ク中ル時ハ九穀ノ豊饒ナリト占ス
其餘三月十二月ノ祭ハ社僧密法ヲ修ミ郷人
ノ詣スルノミニメ流鏑馬ノ式ナシ都テ古實
ノ遺式アリ往昔開山未詳国司北畠家ノ執

掌ノ井ハ本堂及鐘楼堂頭等嚴重ニメ壮麗ナ
リシ四時ノ祭祀モ善美ヲ尽セリ国司家廃頽
ノ後伊賀乱ニ賊兵ノ為ニ侵レ堂宇悉ク兵燹
ニ断滅メ稍ク小堂ヲ営ミテ数歳ヲ經タルニ
伊賀州小天狗ト称ス修験者正保元年三間四
面ノ本堂ヲ建ミ本尊ハ和州吉野山蔵王三尊
弥勒釈迦千手観音ヲ彫メ安置セリ

御嶽城址　同処ノ北ニアリ天正四年御嶽左近
進居セリ日置越前守孫ニメ北畠家歴代ノ臣
ナリ當邑ニ居ス故ニ御嶽ト称号ス天正年中
国司具教三瀬御所ニ断滅メ井織田信雄令メ
本田左京進木造左衛門佐滝川三郎左衛門ヲ

メ撃シム纔ノ小城トイヘ𪜈要害険固ニメ陥ス事能ハス和睦ノ城主左近進伊賀州ニ退ク義ヲ全メ織田ニ属セス其時廃城ス遺址也

杉平

御嶽ノ南ニアリ大和州長谷街道ノ傍ニ民居ス　正税七十四石津領ナリ大和本州ノ界ナリ宇多郡神末村ニ至ル里程前ニ記ス此間ニ岩坂アリ

石名原

杉平ノ巽位ニアリ街道ノ傍ニ民居ス正税七百七十七石津領ナリ八知ノ内老鹿野ヘ徑アリ一里廿二町

奥津

石名原ノ東ニアリ正税　紀州松坂領ナリ属邑波篭本邑ノ北ニアリ

市場

本邑ノ川西ニアリ大久保市場ノ北ニアリ上藤大久保ノ北ニアリ本邑ト上多氣ノ間ニ飼坂ト云アリ大和長谷街道ニメ嶮岨ナリ一名若女坂ト云

八幡宮

市場ノ西ニアリ街道ニ大鳥居ヲ建ル八幡宮ト額ヲ掲ク竪額ニメ黒漆ニメ白字磨滅メ古物ナリ炎上ノ𪜊此額ノミ遺レリト云裏書アリ近衛信基龍山公ノ筆ナリ天正年中ニ所掲ノ古物ナリ鳥居ノ正面川ヲ隔テ鏡山ト云アリ此社祠ノ前ニ宮代川ト名クアリ土人諺曰假初ニ渉ル𪜊ハ甚深ニ慮リテ浅ク渉レト云戒アリ當社ハ国司北畠家歴代崇敬ノ

処ニメ社殿モ造営厳重ナリシ処ニメ断滅ノ後廃社ニ及ヘリ然レ𪜈今ニ其形勢威儀ハ存セリ本社大鳥居ヨリ三町許奥ノ山腹ニ祠有リ

金華山崇福寺 本社ノ傍ニアリ禅宗曹洞天正年中近衛信基當社参詣ノ𪜈當寺ニ休憩シ衣冠ヲ整メ詣玉フ処ト傳ヘリ八幡宮ノ神宮寺ナリ二石一斗二升五合本社ニ国印ノ寄附アリ今詳スルニ本邑ノ名ニ奥津ト称スハ津ノ因ナシ只其邑ノ本州ノ深奥ノ地ニアルヲ称スナルヘシ延喜式祈年祭祝詞云皇神等能依左志奉年奥津御年乎手肱尓水沫畫垂向股尓泥畫寄氐取作年奥津御年乎八束穂能伊加志穂尓皇神等能依左志奉者云云津ハ助字ニメ其深奥ヲ謂ナリ

川上 奥津ノ南ニアリ安濃津府ヨリ坤位十一里凢テ雲津川ハ手俣川ノ水源ナルユヘニ川上ト名ク 正税 津領ナリ 属邑

上村 本邑ノ北ニアリ 中野上村ノ艮位ニアリ 前原 上村ノ北ニアリ 往昔ヨリ一村茶茗ヲ多ク栽テ芽ヲ採リ蒸焙メ四方ニ鬻ク山城州宇治及江州信楽ノ如シ世俗称メ川上茶ト云

丹生俣 川上ノ東ニアリ山間ニ民居ス丹生明神ノ祠アリ多氣川ノ水俣ニアリ故ニ名ク

正税百二十九石八斗一升民家三十六戸津領ナリ　正税七十石七升民家二十戸紀州松坂領ナリ属邑　西俣　本邑ノ西川上ニ至ル山間ニアリ

丹生大明神　同処民家ノ傍山上ニアリ石階二十級登リテ正面本社一宇　祭神高野丹生ト相同シ　瑞籬小門アリ右ニ拝殿廳屋アリ本社ト廳屋ノ間ヨリ薬師堂ニ至ル径アリ　創立ハ国司北畠家ノ時ヨリ経営ニ〆厳ナリ

薬師堂　同所処隣ニアリ民家ノ傍ヨリ山上石階三十級登リテ右ニ本堂九間四面ナリ薬師佛ヲ安ス其餘坊舎十ニシ　国司北畠家ノ世ヨリ経営ス多氣城分野圖ニモ載タリ

宗隆寺　同処薬師堂ノ坤位ニアリ浄土宗多氣分野圖ニハ宗龍寺ト所載ナリ今更テ宗隆寺ト号ス

赤松左馬助教祐墓　同処宗隆寺ノ西芝生ノ中ニアリ方俗赤松塚ト称ス一堆ノ石屛ヲ築テ其上四尺許ノ五重ノ石浮圖アリ古物ナリ銘文ナシ左右ニ石燈爐ヲ居ク左ハ全物也銘曰

奉寄進　播州佐用郡　願主田和村浄圓
宝暦六子二月日　小林平八

右ハ大袋ナシ蓋ト柱ノミ遺レリ　銘曰

享保十五庚戌　小林平〇 缺損

七月五日　　山本太五〇

赤松一家ノ浮沈ハ續大平記第十九本朝通記嘉吉元年六月條次ニ吉野日記同年同月條同三年七月條同文安五年正月條ニアリ今詮スルニ方俗所傳云赤松某国司家ヲ憑テ本州ニ奔ル国司不聽故ニ再奔テコヽニ至ル今氏家ノ傍墳墓ノ西ノ小路ニ草莽ノ地アリ方五間許除地ニメ耕耡モセス是生害ノ時辻堂ニ入テ自刎ス其堂ノ旧址ナリ又其墳ハ浮図ノ形近世ノ巧ムニモ非ス蘚苔埋テ文字モナシ前ニ記ス石燈爐ハ古屋草紙ニハ所謂播州面国ノ修行者建タル処其銘文ニ分明ナリ其支族ノ輩ナルヘシ然レ圧近習ノ所設ニメ敢テ信スルニ不足其本州ニ奔リ此ニ奄亡スル地ハ誣ルニ及ハス然レ圧続太平記所載ハ性具入道嫡子彦五郎教康本州ニ偕行メ此ニ自刎メ亡スルト云猶子左馬助教祐備中水田城ニ居シ終ニ亡スト勢陽雜記此ニ雷同メ彦次郎教祐国司北畠ヲ托ニ奔ル山名宗全カ為ニ自殺ス康正元年五月ト記セリ前説ト異ナリ吉野日記赤松左馬助教祐本州ニ奔リ足利家令シテ軍卒ヲ差ニ国司ニ命メ誅伐ス其僕者二人輒殺ストニ文安五年正月條ニ記ス本朝通記ト同メ文安五年ハ康正元年ヨリ八年後ニ

メ年月稍ク異ナリ　猶吉野日記左馬介教祐ト標ス　通記彦次郎教祐ト云続大平記左馬助教祐文安年中備中水田城ニ居シ後ニ亡スト云トキハ吉野日記ニ相似タリ然レハ左馬助教祐此地ニ喪メ座埋ノ地ト記ハニモ適ヘリトスヘシ続大平記既ニ彦次郎教康本州ニ潜行スト云卄ハ亦此ニ踟蹰ストト云ヘ圧吉野日記其僕者二人斬殺スト云ニ拠ルニ本州仁杼村ニ自殺シ其甲ノ此ニ遺ミ氏俗所傳スル処分暁ニメ前説ニ似リ因テ憶フニ教康ハ其實遠メ教祐其徵ニ遁シ吉野日記ハ偽撰ニメ往々異説多シト云ヘ圧其真モ相半ス故ニ姑ク教祐ニ從フ前輩所謂教康ハ前記ニ所載ト云ヘ圧續大平記モ敢テ信シ難キ多端ナリ故ニ教康ナ此ニ座スルト云ハ猶後ノ訂正ヲ期ス方俗赤松塚トノミ称メ其名徵ナリ僕者木所某自殺ノ所傳ハ飯高郡上仁杼村ノ條ニ載ス併考スヘシ

長楽廃寺今ノ崇隆寺ノ東ニアリ多氣城分野圖ニ所載今廃メナシ

養永廃寺丹生俣川ヨリ東ニアリ同上今廃ス

本願廃寺養永寺ノ東ニアリ同上今廃ス

川上杉峠口崇隆寺ノ北ヨリ川上村ニ至ル徑アリ川上ト丹生俣ノ界ニアリ古昔多氣国

司在世ノ時要害ノ防禦ヲ居テ監スル处ナリ
嶂路越口　丹生俣小路ヨリ南ニ至リ飯高郡川
俣谷赤桶ニ到ル嶮路ナリ（間道ナリ）将軍家国初ノ
時ヨリ諸州巡検使ノ本州桑名ヨリ海東ノ地
ヲ検メ志州鳥羽府ニ至リ度會郡田丸府及飯
高郡丹生ヨリ同郡赤桶ニ至リ此处ヨリ本郡
多氣及奥津ヨリ大和州ニ至リ又伊州ヲ歴テ
再本州員辨郡石榑ヨリ丹生川及山口ニ到リ
美濃州土岐郡ニ入テ帰途ニ趣カル本州検察
ノ終ナリ然ルニ間道幽僻ノ地トイヘ𪜈古昔
ヨリノ使路ナリ、多氣国司家在世ノ時要害
ノ禦ヲ居テ監スル处ナリ嶂路越口ト称ス

丹生俣川ヨリ北西同小路ヨリ東西同西俣ヨ
リ南北同立俣ヨリ東国司属官ノ諸士ノ
邸舎ノ地ナリ今ハ耕地トナリ詳ニ多氣川ノ
水源飯高郡上仁柿局ケ嶽ヨリ流テ西北ニ至
リ本郡上多氣ヨリ下多氣及下野川八手俣ニ
至リ竹原川ト合シ家城大野木川須賀瀬ニ至
リ嶋貫ニ流テ雲津川ト称シ東海ニ入ル其水
源ニ〆小流濫觴ノ如シ南ヨリ北ニ流ル故ニ
立俣ノ名アリ俣ハ川俣水俣ノ謂ナリ

上多氣　丹生俣ノ北ニアリ　正税四百九十石
紀州松坂領ナリ属邑小津本邑ノ南ニアリ
立川本邑ノ南ニアリ小字ナリ　前ニ録ス

一志郡ニ〆多氣ノ名アルハ詳ナラス其北ハ安濃郡其南ハ飯高郡ナリ多氣郡ニ遠シ古今ノ差ニ〆分隷ノ變ニモ非ス旧記ニ或ハ多藝ト記セルモアリ然レハ多藝多氣各假字ニ〆多氣郡名ニ拘ハリタルニ非スト惟ヘリ

多氣城及北畠家歴代舘舎邸舎墟同処ニアリ本城ハ霧山城ト名ク今ノ真善院ノ乾位山上ニアリ櫓臺及城壁ノ威儀今ニ存セリ又條城ハ天ケ峯城ト名ク今ノ奥津領ノ山上ニアリ本州国司ノ中興ハ村上天皇十代孫中ノ院頭大納言通方ノ二男頭中納言正二位雅家万里小路北畠ト称號セリ其後家風稍ク衰ヘテ雅家ヨリ二世師親師重三世北畠准后從一位大納言親房中興〆後醍醐天皇ノ寵臣ニ〆大ニ恩遇セラル故ニ家風再盛ニ〆忠節アリ嫡男中納言顕家奥州国司鎮守府将軍ニ任シ三男從一位右大臣顕能家系ヲ継テ本州ノ国司ニ始テ補セラル暦應元年ナリ顕能ノ二男正二位権大納言顕泰其男大納言満雅其男権大納言教具其男從四位左近将中将政郷其男正三位権大納言材親其男從四位左中将晴具其男正三位権中納言具教其男左中将信意相継テ九代本州ノ国司北畠多氣御所ト俗称ス雲津川ヨリ以南一志飯高多氣ノ三郡ヲ領シ人民ヲ

撫育シ国政ヲ掌握ス此地ヲ始テ鎮護トメ城畳及藩内ノ邸舎ヲ居ク始メ顕能暦應元年本州ニ封セラルヨリ観應三年南朝後村上天皇ノ勅ヲ奉メ大将軍ニ任シ伊賀伊勢二国ノ軍卒ヲ三千餘騎ヲ従テ父准后入道ト𪜈ニ入洛シ朝政ヲ掌ル其後南朝明徳三年ニ及テ廃絶ノ後足利家ニ属メ其男顕泰後小松天皇ニ奉仕シ一志飯高飯野多氣度會五郡及大和國宇陀郡總テ六郡ヲ領シ軍卒二万五千余騎ノ大将ナリ称光天皇應永廿二年北畠満雅足利義持将軍ト矛盾ノ事アリ故ニ将軍江州六角伊賀州仁木大和州筒井越智十市久世満世本州

ノ長野工藤雲林院関神戸峯千草家等ニ命メ北畠家ヲ襲シム南伊勢ニ城砦ヲ諸処ニ築テコレヲ挑防ス本郡阿坂軍ハ此時ナリ其後将軍国司ト和親ス應仁元年細川勝元山名宗全入道京洛ニ擾乱ノ片足利義視将軍潜行メ本州ニ至リ国司教具ニ寓ス事實将軍家譜應仁乱記ニ載タリ尓ヨリ後弘治永禄中ニ及テ家風益熾ニメ其一族若干家ニ分テリ所謂北畠三副将ハ田九御所ニ大河内御所　坂内御所ナリ各軍卒一千ヲ属セリ北畠物語云三家各上六百人内馬上百騎小人四百人一千ノ大将也又一志郡波瀬御所　同郡岩内御所　同郡藤方御所北畠物語云波瀬岩内藤方三家士三百人内馬上

（五十騎小人二百人合五百ノ大将十リ）同郡木造御所（北畠物語曰木造御所士六百人内馬上百騎小人四百人一千ノ大将十リ）各軍卒五百ヲ属セリ又八下森本方穂三家合五百ノ軍卒ヲ属ス又奥カ和州ノ三家ハ澤某秋山某芳野某ナリ（北畠物語云沢一千ノ大将ナリ秋山同上芳野五百ノ大将ナリ）此三氏南朝ノ旧臣ニメ後ニ北畠家ニ属セリ又四管領ノ長臣ハ澤某秋山某鳥屋尾某水谷某ナリ（北畠物語曰鳥屋尾水谷等ヲ以テ大将国司ノ家老トス）各其知令ノ條ニ姓氏ヲ詳ニス九世信意ニ至テ永禄十二年織田信長北伊勢ヲ侵メ且北畠家ヲ襲ハントス𪜈大軍ヲ挑防スルニ地理利アラストテ飯高郡大河内城ニ移ル此時多氣

ノ地ハ旧朧トナリ又此時織田北畠和親メ其男茶筅丸ヲ信意ノ嗣子トス後ニ北畠左中将信雄ト称ス度會郡田丸城及一志郡松ヶ島城ニ迁ル安濃津城ニ織田上野介信包河曲郡神戸城ニ織田三七郎信孝桑名郡長島城ニ滝川左近将監一益北伊勢五郡ヲ領ス其餘関峯雲林院長野千草等各織田家ニ属ス故ニ九代信意ハ信雄ニ従テ田丸城ニ居ス父具教ハ度會郡三瀬城ニ居ス勢州一国既メ平均メ織田ニ属スルニ似リ其後天正四年十一月廿五日具教織田ノ為ニ害セラル其餘一族長野次郎（具教次男旧ト工藤家）友三男式部少輔房兼坂内御所

兵庫頭ヲ誅ス又大河内御所波瀬岩内於テ一
族十三人一時ニ誅ノ滅亡ス暦應元年国司補
任ノ始ヨリ天正四年ニ至テ二百二十九年ニ
及テ北畠国司ノ家系断絶セリ
以上北畠物語勢陽軍記雑記所載粗相同シ
此外伊勢軍記真字勢陽軍記伊勢兵乱記ア
リ大同小異ニシテ謬誤多シ

北畠家系譜

北畠物語或雑記云紋所久我一流
ニメ割菱桐ヲ用ユ

村上天皇 — 具平親王 — 師房 久我家 — 顕房 堀川右大臣 — 雅實 久我大政大臣 法名蓮覚 — 雅定 中院右大臣 — 雅通 久我内大臣 — 通親 土御門内大臣 — 通方 中院頭大納言正二位 — 師親 正二位大納言法名覚円 — 雅家 中院通方二男正二位頭中納言 始北畠ト称ス

師重 正二位大納言法名経覚

親房 大納言従一位准后
一云天徳院殿宗覚元大居士

顕家 鎮守府将軍中納言 奥州国司
延元二丁巳年正月於摂州安部野戦死

顕信 春日中納言奥州国司居鎮西宮 延元三年於筑前戦死

顕能 権大納言右大臣従一位
一云源光院殿端雲雲峯大居士

顕泰 権大納言正二位
一云宝樹院殿弘覚諦教大居士

満雅 権大納言従二位
一云長福寺殿祐山常満大居士

教具 権大納言従二位
文明三年三月廿三日薨
一云金剛宝寺殿興運常感大居士

政郷 従四位上左近衛中将 法名逸方 旧ハ政具
文明十年
一云高徳院殿心祖先天大居士

材親 権大納言正三位法名 心江号大石御所
永正八年出家四十四歳
一云浄眼寺殿無外逸方大居士

晴具 三木中将従四位下 法名天祐六十一歳旧ハ親平或具国
永禄六年
一云義照院殿心月晴具大居士

具教 権中納言正三位天正四年十一月廿五日薨
一云寂光院殿心祖不智大居士

具親
具政 木造左中将従四位下為木造俊茂嗣子 天文二十三年薙髪

信意 参議左中将 或云佑具房 天正三年信雅ト称ス
具藤 長野次郎
房魚 式部少輔 實具親男
親顕 慶長八年誕生 實中院通勝男 信意為嗣子

信意 神風徴古録云天正四年十一月四日大河内城自害トス非ナリ雑記所載大河内御所十一月廿五日田丸城ニ誅スヲ誤ナリ然レ𪜈北畠信雄養父タルヽヲ以テ京師ニ許シ居メ後薨スト云 木造家ハ北畠権大納言顕能三男正三位顕俊ヨリ氏別ス

国司歴代館舎墟 今ノ真善院ノ地ナリ本邑ノ西ニアリ雑記所載北畠家代々ノ古墳今上多氣下多氣両邑ノ間上多氣領ニアリ豎六十五間横三十八間ナリ西北ニ林岳続キ東南ニ溪川アリ築山泉水ノ形ノミ致景古ノ侭ナランニトソ覚ユ池ノ長南北廿七間横十間嶋崎ニ古松アリ俗ニ蛇松ト謂ク又大ナル豎石数多其外池中ニ埋レ青苔生タル巖𪜈其数ヲ知難シ櫻ノ馬場六十間横十四間笠懸ノ馬場豎六十二間横三十三間犬追物馬場豎五十間横三十二間ナリ斯ル処彼屋形モ没後ニ土民ノ

耕地トナリシカ其後上多氣数度ノ火害ナト
アリテ二村共ニ衰微セシカハ民間不思議ノ
コトヽシ屋形ノ跡ノミ耕地ヲ改メ八幡宮ヲ勧
請シ社檀カクノコトク設ケ信仰不怠ケレハ
両多氣共ニ賑ハシク成リヌ宿願ノ者神前ニ
小松ヲ寄進シ栽ケルニ尋常ノ松ニテモ多ク
三葉ヲ生シケル毎祭八月十五日隣邑ヨリ民群
集シ鉄炮ノ的ヲ打祭礼ヲ営ミケルナリ云云
今詳ニスルニ北畠歴代ノ古墳ニ非ス館廳ノ
旧址ナリ竪横ノ疆域大畧右ニ同シ然レ共後
世ノ除地ナリ古昔ノ舘舎ハ城界ニハ非ルヘ
シ假山泉石ハ南北今撿スルニ埋没メ廿間許

東西稍ク濶狹アリ池濵ノ形ハ水ノ字ヲ象レ
リ假山ハ埋テ十ニシ稍ク竪石数十箇アリ其餘
汀際ニ数十箇アリ各海産ニメ本州及志摩州
ノ海嵓ナリ前號家城瀬戸カ淵ニ辯スルカ如
シ其大畧　琴ノ石　池中中嶋ニ架ス石梁ナ
リ形琴瑟ニ彷彿セリ　飛蛙石　居蛙石　仁
王石　孔子石　座禅石　達摩嵓　唐子石
船嵓　屛風嵓　虎石　亀石　夜啼嵓　大黒
嵓　蛭子嵓　仙人嵓　冨士石　等ナリ其餘
小嵓雅致ナル多シ後人ノ名称ス処ナリ池嶋
ノ蛇松ト称スルハ今枯槁メ亡シ真善院ノ東
ノ山傍ニ方俗児松ト称スアリ其治世ヨリ存

在メ古樹ナリ枝葉蟠屈メ下垂ス又櫻ノ馬場今亡シ悉ク耕鋤メ田圃ナリ其餘ノ犬追物笠掛ノ馬場ハ今本邑ノ内馬場ト称メ民居四五宇アリ悉ク耕地ナリ館廳ノ址ハ四壁ニ林岳溪川大路ヲ疆リテ繞ニ真善院ノ境地及八幡祠ノ社域トナレリ八幡ノ社前ニ古井アリ往昔ノ形勢ナリ前ニ謂フ三葉松今曽テ亡ミ都テ老杉樹ヲ栽ル毎祭八月十五日鳥銃ノ的及相撲ヲ行テ隣邑ノ民詣スル多シ明暦中所謂ト稍ク今ハ異ナリ今詮スルニ多氣城及舘舎ノ廃絶ハ永禄十二年飯高郡大河内ニ織田ノ軍ヲ豫防セニカ為ニ所築ニメ其時國司具

教及其嫡信意俱ニ大河内ニ迁リ多氣ハ旧墟トナリ織田ト和親メ度會郡田丸城ニ信意ハ寓シ其父具教ハ同郡三瀬城ニ迁ルハ既ニ伊勢兵乱記勢陽雜記其餘諸本皆同シ今一ノ疑惑アリ吉野旧記ニ應永廿一年南帝ノ皇子ニ位ヲ不譲ニ依テ伊勢国司北畠滿雅背憤ヲ含テ武家ニ背テ軍士ヲ聚メ所謂関左馬助其一黨神戸岸岡国府鹿伏兎等其外和州伊州勢州志摩ノ兵士悉ク馳催ス然𪜈北畠俊泰ノミ武家ニ背カス應永廿二年春三月北畠滿雅兵ヲ起シ坂内ノ城ヲ攻ル時ニ城主俊泰京ニ在リ故家僕拒戦トイヘ𪜈滿雅急ニ攻戦フ城内ニ

将ナク一決セスメ遂ニ陥ル是ニ於テ国司阿
佐賀城ニ居テシテ其弟雅俊木造城ヲ守ル顕
雅大河内城ヲ守ル其外多氣坂内王丸等ノ諸
城ヲ兵士ヲメ守シムト云又云永亨十二年
七月三日條今年伊勢国司満雅卒ス其遺跡其
子中将顕雅相続メ大河内城ヲ守ル其弟少将
教具多氣城ヲ守ル（下畧飯高郡大河内ノ條ニ詳ニ載ス）又一
本ニ云永禄十二年秋八月廿日信長卿勢州征伐
ノ為尾濃七万余騎ヲ卒メ秀吉ニ命メ同廿六
日阿坂越ヘ攻ル中畧信長卿国司ノ本城大河
内ヲ攻国司具教入道不智斎息男左中将信意
次男長野次郎長教ヲ主将トメ一族郎等三万

餘人篭城ス寄手池田勝三郎信輝搦手メ攻ロ
ヲ衆入リ二ノ丸ニ国司勢楯篭ル此間ニ同国
八田城主楠七郎左衛尉正具信長ノ本陣ヲ夜
討ス藤吉郎奇計ヲ出メ多藝谷ノ城ヲ攻国司
入道遊山別業ノ地ナリ国司父子ノ妻女一族
ノ女房幼先ヲ篭置ク大河内少輔森本飛弾守
ヲメ二千餘スコレヲ守護ス十月廿三日浅野
弥兵衛尉堀尾茂介ニ命メ焼草ヲ用意シ秀吉
二千余人ヲ卒メ廿四日ノ暁ニ城ノ堀際ニ至
リ堀尾二百五十人搦手ヨリ城中ニ入父子ノ
妻女一族ノ妻子以上三十七人ヲ搦捕リ城ヲ
焼討ニス又生捕ノ婦人三十余人ヲ大河内城

ニ不破河内守菅谷九右衛門ヲ両使トメ送遣
シ和平ヲ取結ヒ信長長男茶筅丸ヲ北畠ノ養
子トシ帰陣ス マデ ル ニ應永中
満雅ノ時ニ大河内城ハ存在メ多氣モ未旧墟
ナラス又或本ノ異説ハ其徴未詳トイヘトモ大
河内拒戦永禄中ニ未タ多氣ノ故城モ全事本
説ノ如シ豊臣氏駈テ其城陥ルト云ヘトモ焼討
ノ證ナシ今親見スルニ古尾及泉石等ヲ遺セ
リ敢テ火ニ遭シモノニ非ス然レハ前ノ二説
大河内城所築ハ應永中既ニ存在メ多氣ノ旧
址トナリシハ永禄中ナルヘシ然レトモ又異説
アリ北畠国永集曰 きゝにまかりて帰り多

氣にとまりて或旅人のもとより
と詠みおくる人ありけれは返しに云ふ福井月乃光りを
ゆくゑたちかね
秋山のふかく隠し月もとはるも不語る旅まれ之にくはなれ
多気といふ所ふる白雲たちてよそ川おもあされ
なるみ渺ちりかは波立ちこえて
名に来る根はれなり誰か根にかへるかくはけりを
伊勢北海の沖津浪よりも世に幸く老もせす
ていふ川ともなく霞立ちなる床の上に旅なく
あらしうらなるまゝおもひつゝ常住みに京
くの都をあまりへし多気なれと坊舎北一宇も
あらされは備北汚法をかはらしこそなりけら

ニ不破河内守菅谷九右衛門ヲ両使トメ送遣
シ[illegible]ヲ取結ヒ信長長男茶筅丸ヲ北畠ノ養
子トシ帰陣[illegible]　吉野日記ヲ閲スルニ應永中
満雅ノ時ニ大河内城ハ存在メ多氣モ未旧墟
ナラス又或本ノ異説ハ其徴未詳トイヘトモ大
河内拒戦永禄中ニ未タ多氣ノ故城モ全事本
説ノ如シ豊臣氏馳テ其城陥ルト云ヘトモ焼討
ノ證ナシ今親見スルニ古瓦及泉石等ヲ遺セ
リ取テ火ニ遭シモノニ非ス然レハ前ノ二説
大河内城所築ハ應永中既ニ存在メ多氣ノ旧
址トナリシハ永禄中ナルヘシ然レトモ又異説
アリ　北畠国永集曰　吉野にまよひて帰り多

氣につきて或夜人のもとより
こと語るもみえる人いかさま数々に云ふ福井月乃光りを
みつゝぞかへる
種々のこと清し月ももろもに語る折ふし此方へくはなし
多気といふ所に住みてよろ川おもあれ
なるを見る流ちりなし涙立こえてゝ
色とて来ぬ根もれはり根よりも深く
伊勢北海の沖津塩よりも世に辛く老をく木
ていつも形く恥きちなる床の上に夜なく
あらしのかなるまゝおもひつゝ帝待つに家
くの新きなりへし多気なれと坊舎此一字も
あるまじく備此作法をも沙汰なしことなから

めある頃に唯鐘告四方ゆゝ説かれつゝましよれの
ひちあれ懐りも角やらんと告おとにうて漥
の響も猪川く毫れかたふ紀に涼もなくして
雾ハ不的の秀ことなし仮蒐の袴れこゝろも待
禄ゟ月ゟ常侍れ断とそ見えし仮条のやと涼べる
松さくへきた枯果し風れ声ましくらめしくと
たへても猶身かしむきのりあされなり蘇ゟ
暁らとなりて叢菓拃叢き狐のかくれ所とす
侍あくゝみや民の竈のこゝろふま所なうふ
くなのけなとひと川もなされハそら声もうく
にすさるり仮の白髪のこなふ仮も数さぬ笑
のせ紀とめかれもせうし月ゟのちやく追れゟ

ゟ菓もいまはとおも僊く思ひきのふ陽ゆゝ川ふ
る哉三首はよめ涼とこ哉〻
合もなく漥もなき里は川うまて我世の旁も頃るうき所之ん
今枯の雅となゝ涼まてにこひ侍ゟ多とも竹く今年れゟ里
こゝろしまる哉は松山まちみんと老の身小しもあれきて渉

雑記所載 蝦夷ふ大河内に城廓をとしらく移
星なひしより古地都の名のそのうしにひ
としく成されゟようて君しゝふ
秋山や沢の木の葉れちりきて多氣の内庭に広やなん
玉司れ返奇
垣ゝちそ住やれ果て陽ある所田畑の荒生あれ果みかり
注曰澤秋山ハ国司ノ家長ナレハヨミ入ケル

トソ家所細野草生皆工藤家ノ一類ナルユヘ
カクノ咏ルナルヘシ今詳ニスルニ国永集ニ
吉野ニ詣メ帰途ニ多氣旧墟ニ至ルノ詞アリ
吉野皇朝ハ長禄三年六月ニ至テ赤松カ族石
見某カ為ニ皇統絶テ北朝ニ一統ス然レハ長
禄ヨリ前ニ皇居存在ノ時ナリ織田家ト和親
ノ後ニ絶廃スル時ハ永禄十二年ナリ長禄ハ
百九年前ナリ長禄ノ後明應永正天文ニ至リ
多氣居城ニメ執掌ノ政アリシハ必然ナリ国
永所謂甚疑アリ又雑記所載細野九郎左衛門
尉藤敦ノ咏アリ天正八年安濃城ヲ退居メ伊
賀州ニ適ル然レハ天正ヨリ以前在城ノ時ノ
口號ナリ藤敦存世ノ時ニメ詳ニスルニ永録
天正ノ間ナリ既ニ永禄年中尾州清須本ノ城
藩ノ図本ノ所載ハ未多氣旧墟ノ前ナリ唯其
徴ハ永禄中ニ従テ其後旧墟トナリシヿ必然
リ雑記所載ノ大河内城ヲ所築ヨリ旧墟トナ
ルト謂ハ恐聴訛ナリ撰者ノ暗推ニメ録セル
ナリ吉野日記ニ拠レハ永亨十二年多氣大河
内城モニ存在セリ其徴ヲ得テ論スヘシ
多氣窓蛍曰むかし貞観八年此国によのへは
うき〻儀僅しけるまゝ野宮まて如日せし〻来
数手儀ふきあし給へり才ふも多年此人多年
の守正尺やいく如、新天恩代こともる河曾

篠ヲ借りてかの人とのわかるや　あらくも米八升とる
まみをへり蔚とるが称なくおはひらえ　こよまうし
も田も今江川のさ田こ並なりる跡もとも宗
あうり付くおほくて今まで　くりんとしふ
米此邑ひし多しと稲を見て　しる紀さのしなるへし
大日本史清和天皇本紀云貞観八丙戌年六月
甲戌朔伊勢国憍飢疫賑之　又云秋七月丙午
遣使伊勢賑多氣度會二郡飢　今詳ニスルニ
多氣度會二郡ニ隷ル国史ノ言ニ拠レハ此地
ノ事ニ非ス然レﾄﾓ多氣ノ窓堂ニ拠レハ今ノ多
氣村ノ事實ニ似タリ国史ヲ奈拠トメ他ノ嘴ヲ
容ルヽニ及ハストイヘﾄﾓ今此地ニ多氣早稲ト
称メ甚早ク實ル稲アリ本邑ハ云ニ及ハス隣
比ノ地ニ種稼スル多シ若ハ貞観ト称スル遺
種ニ非スヤ其真ハ未得姑クコヽニ標メ後賢
ノ訂正ヲ俟モノナリ

圖書局文庫

勢陽五鈴遺響一志郡巻之二終

紙数六拾九枚

69

内閣文庫

紙數六拾九枚

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan